

資
料
編

一 兵要地理資料集録（渡邊正氏資料）について

金窪敏知

兵要地理資料集録（渡邊正氏資料）とは、旧陸軍参謀本部の参謀で元陸軍少佐の渡邊正氏が保存されている終戦前後の記録文書であり、内容は次の通りである。

- (一) 大東亜戦争末期に本土決戦に備えて計画実施された兵要地理調査研究会に関する資料
- (二) 終戦時における地図等の焼却処理に関する資料
- (三) 陸地測量部組織の処理と内務省地理調査所の設立に関する資料
- (四) 戦後進駐軍との折衝に関する資料
- (五) 兵要地誌に関する資料
- (六) その他（参考資料等）

右のうち、その他の資料には各種の地図が含まれる。文書の形式は、ガリ版、タイプ印刷、活版刷、ペン書、鉛筆書などさまざまで、公文書のコピーや下書きもあり、総数約七十点に及ぶ。進駐軍との折衝に関する資料には英文が含まれている。

渡邊正氏は昭和十九（一九四四）年五月から昭和二十（一九四五）年十月終戦による復員まで、参謀本部陸軍参謀、大本営参謀陸軍少佐として、

情報担当の第二部に所属した。当初は第七課（支那情報関係）、次いで第六課（采英情報関係）において勤務し、更に第四班に移って、情報に関する総合情勢判断、兵要地誌、および陸地測量部の管轄を担当した。氏の在任中の業績として挙げられるのは、第一に、前記（一）の兵要地理調査研究会の発案および実質的運営に携わり、陸軍と地理学者との交流、連携の基礎を作り上げたこと、第二に、終戦直後に陸地測量部を陸軍から急遽内務省に移管し、「地理調査所」として改組再発足させることを発案し、上司に対する意見具申ならびに関係部局との折衝に積極的に携わり、極めて短期間にこれを実現させたことである。

外邦図研究会による追跡調査で明らかにされたように、陸地測量部が中心になって作成された外邦図は、戦後になって主として資源科学研究所、東京帝国大学、東北帝国大学（何れも当時）などに搬出頒布された。昭和二十（一九四五）年九月当時、参謀本部にあって地図類に関する残務整理に従事していたのが渡邊参謀であり、外邦図搬出先の研究所や各大学の地理学者は何れも兵要地理調査研究会に委員として参画していた。参謀本部からの地図搬出が円滑に行われたのは、このような参謀本部と地理学者との緊密な人的交流、特に兵要地理調査研究会の存在があった故と理解される。

前記のように、渡邊氏資料は多岐に亙るが、必ずしも系統立てて整理されたものではない。終戦時の混乱の中にあつて、それまで蓄積された情報収集の記録および成果の散逸を恐れた渡邊参謀が、密かに個人的に保管されていた資料であり、今日漸く公開に踏切られたものである。従つて、内容的に外邦図と直接関係するものではないが、外邦図の研究者

にとつては背景事情を知る上で極めて貴重な第一級資料と言える。この
ようなことから、渡邊氏資料のうち、特に外邦図研究者の参考になるで
あろうと考えられる資料を、約二十点選別し、解説を付して作成したの
がこの資料集である。編集に携わった一員として、この資料集が意義深
く活用されることを望みたい。

一 兵要地理資料集録（渡邊正氏資料）解説

高木 勲

旧日本陸軍の兵要地誌は、明治の建軍以来常に外征軍の予想戦場となるべき滿洲、蒙古、支那、ロシア等のアジア大陸を实地踏査し記録編集することであった。しかし、大東亜戦争勃発以来、戦域は調査未了のまま南方方面に拡大し、やがて戦況不利となるに及んで本土決戦必至の情勢となってきた。

昭和十九年十月、大本營第二部參謀（のちに兵要地誌担当）に渡邊正少佐が着任するや、画期的に広く学者の協力を得て軍民一体の総力戦態勢をとるようになった。

その頃に整備された兵要地誌資料や関連文書は終戦の混乱で四散したが一部は残されていた。いわゆる渡邊正氏資料とは次の六時期に区分して整理することができる。

- 一 大東亜戦争末期に本土決戦に備えて計画実施された兵要地理調査研究会に関する資料
 - 二 終戦時における地図等の焼却処理に関する資料
 - 三 陸地測量部組織の処理と内務省地理調査所設立に関する資料
 - 四 戦後進駐軍との折衝に関する資料
 - 五 兵要地誌に関する資料
 - 六 その他（参考資料等）
- 以下、各区分に従って資料の内容を解説する。

一 大東亜戦争末期に本土決戦に備えて計画実施された兵要地理調査研究会に関する資料

昭和二十年四月～八月終戦までの間の資料

一 「部外関係者ノ統合利用ニヨル兵要地理調査研究会合ノ件通牒」

作成者第四班 B5・B4 タイプ 昭和二〇・四・二五
三枚

本土決戦を間近にして必勝の戦略戦術をとるため、兵要地理の整備が極めて重要である。基礎的な知識の乏しい者が作戦的着眼だけで成果を期待するのは危険である。また時宜に合わない調査研究や学者的理論も作戦には適さない。この際有能な地理学者を同志的に糾合し、軍学協力して本土の兵要地理調査をすることによって、戦局打開の勝ち目を見出したいというのがこの会合の趣旨である。

渡邊參謀は、まず東大の多田文男氏と協議し、同氏から辻村太郎氏へ次いで文理大の田中啓爾氏、さらに各大学などの地理学者十数名の推薦を得た。その際旧知の渡邊光氏（曾て陸軍予科士官学校在勤）の側面的協力も得た。

第一次会合は昭和二十年四月三十日に行われたが、第二次は戦局の急転により開催されなかった。この様な画期的な地理学者と軍との会合はこれが最初で最後であった。

なお、第一次会合当日に参集者に配布された文書（佐藤久氏所蔵）では、本文書の標題が「部外関係者ノ統合ニヨル兵要地理調査研究会合」

となっている。

一 二「第一次兵要地理研究会合行事予定表」

作成者第四班 B 4 ガリ版 昭和二〇・四・三〇 二枚

本資料は一一の付属の予定表および参集者名簿である。

場所は構内の高等官集会所において、部長、課(班)長、関係部員参集。

第四班渡辺少佐司会および趣旨説明、辻村博士代表挨拶、参集者個別紹介。研究題目付与担任決定などが行われた(口絵写真参照)。

一 三「兵要地理研究課題決定要領」

作成者第四班 257×762 タイプ 昭和二〇・四・三

〇 一枚

本資料は一一の付属の研究課題と実施分担表である。

食糧自活の考察、工業立地、地下施設問題、資源分布と軍需生産。海岸より内陸への道路、鉄道網。敵の本土分断構想(住民心理思想の地域差、人文地理的歴史地理的考察)、敵の本土上陸企図判断(気象を含む)、上陸防御の見地から地形の築城的観察。対戦車戦闘上の地形研究。本土を中心とした航空気象上の特性、航空基地の適地、など項目別に担当者を決定。提出期限は五月十三日とされている(口絵写真参照)。

一 四「謝礼金支払相成度件」

作成者第六課 B 5 ペン書 昭和二〇・八・八 三枚

第一次兵要地理調査研究会のこの時期までに完成した資料目録と個々の地理学者(個人別一覽表)への謝礼金合計三、五〇〇円を予算のある第六課(当時支那担当)から支出された。成果品は残っていない。

一 五「帝国本土分布図目録」

作成者第四班 B 5・B 4 ペン書 日付不詳 六枚

前項の更に詳細な成果品目録と思われる。上陸適地、道路網図、食糧関係の成果図など地誌図作成の学者の分担(上記謝礼金)の内容、および部内作業の現況など。現実には成果品は終戦時焼却されたものも、学者の手許に残ったものもあったと思われる。

二 一「終戦時における地図等の焼却処理に関する資料」

昭和二十年八月十五日〜二十日の間の資料

二 一「陸軍秘密書類焼却二関スル件「軍事機密」」

発信者参謀総長 B 5 タイプ 昭和二〇・八・一五 一枚

終戦直後の秘密書類焼却に関する根拠文書、「その他重要と認むる書類」に地図、兵要地誌を含んでいる。

二 二「情勢ノ変転ニ伴フ作戰用地図処理要領ノ件通牒「軍事機密」」

発信者総務課長 B 5・B 4 ペン書 昭和二〇・八・一九

八枚

終戦の四日後軍事極秘以上の地図、地誌図は焼却し、極秘以下は残

置する、など細部の指示を与えている。

紙の地図は焼却するが、原版（銅版）は残置すると明記してある。

参謀本部、部隊・官衛・学校、陸地測量部、民間印刷会社別に細部記載されている（口絵写真参照）。

二二「兵要地誌資料目録」

作成者渡辺少佐 B5 ペン書 昭和二〇・八・二〇 四枚

前記二二の焼却すべき地誌図目録の一部と推測される。

本土における砂丘分布図ほか十九点の目録。

三 陸地測量部組織の処理と内務省地理調査所設立に関する資料

昭和二十年八月十九日〜昭和二十一年三月頃までの資料

三 一 「終戦二件」陸地測量部処理要綱案「極秘」（原稿）

作成者渡辺少佐 B5 鉛筆書 昭和二〇・八・一七 一〇

枚

終戦の翌々日の深夜渡辺参謀が不眠不休で起草した原稿であり、陸地測量部の処置を案じて具申されたものである。

その趣旨は以下の通りである。終戦の現実直面し「陸地測量部」は軍の一部として当然存在は許されない。まず職員の身分を保全してほしい。次に組織としては米軍に接収されるであろうが、国土の復興は一日も休むことはできない。従って軍の組織から急ぎ平時組織の内務省に移管し、名称も「陸地測量部」以外の名称に改め、軍人は速や

かに去り職員は引き続きその職務を継続し、組織としては以前からあったごとく認識させて米軍と交渉して欲しい。

この原稿を書記が清書して上司の第二部長有末精三中将に上申された。

終戦の二〜三日後のこの時期は日本中が大混乱に陥っていた。特に大本営は陸軍の組織の解体、書類の焼却、復員や米軍の接収対策等で陸地測量部の将来まで考える余裕はなかった。この意見具申書を読んだ有末部長は「渡辺参謀に任す」と一任されたので、渡辺参謀は旧軍の測量主体の名称よりも国土復興には「地理」を主体とすることが重要と考え「地理調査所」の名称を発案し、この案で有末部長の承認を得、次いで移譲を受ける内務省国土局の岩沢忠恭局長の承認を得て、ここに「地理調査所」の名称が誕生したのである。

この案に従って事務的に急遽八月三十一日に陸地測量部（部長大前憲三郎中将）が廃止され、米軍の接収前の九月一日付で内務省地理調査所が設立された。

所長には当初陸地測量部技師の武藤勝彦氏を推薦したが、本人が固辞したので止むなく岩沢国土局長が兼務で任命され、年末に武藤勝彦氏が就任した。

軍の組織である「陸地測量部」が米軍に接収解体されずに「地理調査所」から現在の「国土地理院」に引き継がれているのも、その淵源はここにあったのである（口絵写真参照）。

三 二 「地理調査所関係事項中担任実施業務概要」

作成者第一復員省 B 4 タイプ 昭和二・三・一 一枚

終戦の翌年三月、第一復員省（参謀本部の残務整理業務を含む）と、新設の地理調査所との業務分担を渡辺氏が記したものである。

即ち、本土以外の地図・兵要地誌、外地の測量部隊、本土の兵要地誌、その他連合軍の指令によるもの等は旧参謀本部の業務として第一復員省が担当する。

四 戦後進駐軍との折衝に関する資料

終戦～昭和二十三年頃までの資料

対進駐軍関連で断片的で脈絡のないもの、公表に値しないものについては省略した。

四 一 「兵要地理調査」関連回答資料

作成者第一復員省 B 4 タイプ 一九四六・四・一五 一

○枚

第一復員省で旧参謀本部に関するGHQからの要求に対する回答。

ここでは旧陸軍の兵要地誌作成に関する方針、範囲、調査要領等が要約されている。

過去においては、ソ連。中国等を重点的に整備しており、米英すなわち南方方面は殆ど整備されておらず、開戦後俄に収集整備されたものである。その手段としてドイツ等から得た情報が多い。これらに関しては、一九四六・一・三〇に防諜部マッシュューズ少佐に報告してある。

調査要領は、予想される戦場を具体的に判断するため、戦術的には

地形、地質、気象、水運、通信、航空、築城、衛生、宿泊給養等について。戦略的（国防上）には、資源、工業、経済状態、住民、教育、思想、宗教、行政司法、運輸通信等広範囲に亘る調査整備が必要である。

既刊の刊行物は、支那関係は省別にかなり詳しく調査整備されており、米英関係ではマレー・ビルマ・フィリピンは戦前と戦時中にほぼ整備された。ジャワ・スマトラ・ボルネオ・アリューシャンは開戦後に調査し整備中であり、仏印・タイ・ニューギニアは不十分であった。南洋諸島は海軍担当である。

地図は、地上作戦用として十万分一を主とし五万分一、二十万分一、五十万分一も使用した。ニューギニア・ソロモンの地図は間に合わなかった。

支那関係は概ね師団・旅団クラスまで各省兵要地誌が配布され、現地軍では作戦地誌資料として補備作成された。

五 兵要地誌に関する資料

昭和二十一年～二十四年頃の資料

五 一 「日本本土兵要地誌調査要領に対する私見」

作成者渡辺正 B 4 タイプ 昭和二四・六・二三 二枚

第一復員省において渡辺氏が私見を上司に提出したものの、その後は不明。以下要約

○ 自然、人文地理要素をもれなく調査し、その重点を明らかにす

る。

- 戦争指導上（総動員用）必要な事項及び作戦指導上（用兵戦術上）必要な事項に即応する着眼と内容をもって調査する。
- 具体的項目は、地形、地質、海岸、陸水、海洋、気象、交通、通信、航空、都市、住民、衛生、資源、農業など。
- 表現は兵要地誌図表としたほうがよい。
- 官民有識者と少数の有能な基幹人員で運営するのがよい。

五二「兵要地誌保管目録（史実部）」【秘】

作成者史実部 B5 カーボン 日付不詳 五枚

作成年月日不明、ある時期に第一復員省の史実部に存在保管されていた目録である。内容は気象兵要地誌第六巻ほか五十項目。

五三「兵要地誌調査要目（元参謀本部渡辺少佐記述）兵要地誌調査要領ノ参考」

作成責任者元渡辺少佐 B4・B5 カーボン 日付不詳
二三枚

折角企画した本土の兵要地誌も、敗戦で日の目を見ることができなかった。何とかこの思想と遺産を後世に遺さんと渡辺氏の発案で地理学者に作成させた。内容は二篇十三章。連合軍司令部にも提出された。昭和二十一〜二十四年頃、表紙には渡辺少佐記述とあるが本人は記憶がない由、執筆者の地理学者は不明。

五四「調査要項」（冊子）

作成責任者元渡辺少佐 執筆者不明 203×328 ガリ
版 日付不詳 八枚

趣旨は五―三と同じ

一般的地誌の調査項目と思われる。内容は十九節八十六項からなる。

五五「別冊 作戦に関する地理的重要事項」（冊子）

作成責任者元渡辺少佐 執筆者不明 203×328 ガリ
版 日付不詳 一五枚

趣旨は五―三と同じ

五―四を更に作戦的に詳述したものとされるが、章・節建てが、やや異なるので別の学者が作成したものではないか、とくに森林・植物が詳述されている。十六章八十八項からなる。

五六「兵用日本地理総目次」（冊子）

作成責任者元渡辺少佐 執筆者不明 203×328 ガリ
版 日付不詳 八枚

趣旨は五―三と同じ

現実には目次だけで、終戦迄に内容はできていなかった。七卷十二編からなる。

六 その他（参考資料等）

時期を限らず上記各項の参考となるもの

六一「第二回委員会ノ開催」(参考資料)

作成者外務省 B5 タイプ 昭和一九・二二・一五 二枚

これは副題で、主題は欠頁のため不明。

一一にある兵要地理調査研究会とは別に外務省が主催して開かれた「中国調査会」運営の方針決定のための文書と思われる。

学者は地理、歴史、社会、思想等幅広い各界の学者を網羅している。

第一回は十二月六日に開かれたと思われるが、その記録は残っていない。

当時外務省では中国と呼び、陸軍では支那と呼んでいた。従ってこの兵要地理資料集録の対象外であるが、地理学者の名前があったので参考までに収録した。

(注) サイズ B5 || 257 × 183 B4 || 247 × 366 ミ

リ(非定形の数値もミリ)

兵要地理資料集録(渡邊止氏資料)

一 大東亞戰爭末期に本土決戦に備えて計画実施された兵要地理調査研究会に関する資料

一 一 部外関係者ノ統合利用ニヨル兵要地理調査研究会合ノ件通牒

牒「極秘」

極秘

部外關係者ノ統合利用ニヨル兵要地理調査研究会合ノ件通牒

昭和二〇年四月二五日 第四 班印

殿

首題ノ件ニ關シ別紙ノ要領ニ依リ實施致スニ就キ會合ノ際關係部長參集相成度

兵要地理調査研究会合ノ件趣旨説明

目的

情勢ノ進展ニ伴フ必勝施策確立ノ一環トシテ其ノ根基ヲ成ス處ノ重要ナル兵要地理整備ヲ完全且速急ニ促成スル爲メ戰爭並作戰地理上ニ直ニ寄與スベキ部外有能ノ士ヲ同志のニ統合シ其ノ斯界全總力ヲ一元ニ結集シテ之ヲ戰爭ニ直結シ以テ決勝作戰準備速成ニ遺憾ナキヲ期ス

趣意

兵要地理調査ハ其性格上普ク部外ノ總力ヲ統合結集シ之ヲ善導活用スルコトニ依テ其ノ完キヲ得

斯クスルコトガ即チ今日最大ノ要請タル「完全ナル兵要地理成果ヲ速急ニ獲得セラルル捷徑トス

此種基礎的知識ノ乏シキ武骨漢方作戰の着眼ノミヲ掲ゲテ其ノ實内容整ハズ偏狹ナル見解、淺薄ナル知識ヲ以テ作戰準備資料トシテ其ノ成果ヲ期スルハ寧ロ危険ナルコトニ屬ス

重要ナル作戰準備ニ「拙速」ハ絶対許サレザル處、況ンヤ本土決戦ヲ迎フルニ於テ然リ

固ヨリ間ニ合ハザル調査研究乃至ハ理窟ニ終始スル學究的學者風ハ一顧ノ價值スラ無キモ如上ノ趣旨ニ基キ強力ニ之ガ全智囊ヲ動員シ方向ヲ與ヘ着眼ヲ附與シ其ノ總力ヲ一元ニ結集シテ之ヲ戰爭ニ直結シ斯クシテ据身事^②ノ兵要地理認識ノ向上ト相俟テ刻下最大ノ要請タル戦局打開ノ「勝目」ヲ兵要地理ニ依テ見出スコトノ必要ナルハ今日ニ於ケル喫緊ノ大事ト認ムルモノナリ

要領

人選

一、成ルベク權威ヲ集ムルモ要ハ國ヲ憂ヒ軍ヲ思フノ至誠有能ノ同志タルコトヲ第一トス

二、理窟多ク過度ノ學究的専門^マ家ハ排ス

三、殊ニ軍事地理ニ精通シ實地ノ體驗ヲ有スル實行家ニ着目ス

四、特ニ本土ノ地形ヲ精シク又米支ヲ攻究シアル者ヲ重點トス

- 五、主トシテ東京在住ノ者トス
 - 六、人選ハ「ムズカシク」限定セズ次ヲ逐フニ從ヒ所要ノ參集ヲ加フ
- 組織

- 一、「委員會」トカ「審議會」トカノ名題目ノミヲ掲ゲテ動モセバ内容不統一、不効率ヲ招クガ如キ機構ノ名目、資格等ヲ問題ニセズ要ハ國民ノ一トシテ燃エ出ヅル忠誠心ヲ地理學者ノ名ニ就テ凝集スルヲ主眼トス
 - 二、資格、身分等ハ右趣旨ニ基キ軍屬、囑託等ノ軍ノ構成分子トセズ前述ノ如ク國民ノ一員トシテ軍ニ直結ス
 - 三、機構ハ右ノ趣旨ニ副ヒ同志ハ更ニ増加スベク機動スベク定員トカ會員トカヲ限定セズ
- 第一次會合
- 別紙ノ如ク定ム

一 二 第一次兵要地理研究会合行事予定表

考 備	後 午 前 午				分区		領 要	第一 次 兵 要 地 理 研 究 會 合 行 事 豫 定 表			
	八 解 散	七 担 任 決 定	六 昼 食 ・ 休 憩	五 研 究 題 目 檢 討	四 懇 談 ・ 休 憩	三 參 集 者 挨 拶			二 會 合 ノ 趣 意 並 二 要 領 說 明	一 部 長 挨 拶	
一、各課ノ研究課題ハ重点の事項若干(二、三程度)ヲ準備シ豫メ第四班ニ連絡セラレ度(當面ノ具體の細部事項ハ各個別のニ連絡スルモノトス) 二、會合準備並ニ參集者ノ世話等ハ第四班ニ於テ担任ス	資料準備	研究ニ必要ナル所要ノ資料(地図等)ハ夫々之ヲ準備ス	報告時期ノ決定	午前ノ研究ニ基キ主担任此間要スレバ所要各課個別の連絡	各課ノ課題並ニ參集者ノ意見檢討	部長・部員懇談	參集者ノ個別の紹介	辻村博士	第四班渡辺少佐	昭和二〇年四月三十日(月)	昭二〇、四、三〇
	一四〇〇〇	一五〇〇〇	(一時間)	(一時間)	(一時間)	(一〇五分)	(二〇分)	(一〇分)	(一〇分)	(一〇分)	參集者ハ予メ控室ニ參集ス

左 記

兵要地理調査研究會合ノ件
參集場所

東京都牛込區 參謀本部第一部

第一次參集日次

昭和二十年四月三十日(月) 九時〇分

(參考) — 第一次參集者芳名 (五十首順)

- | | |
|-----------------|------|
| 陸軍予科士官學校教授 | 新井 浩 |
| 東亞研究所々員 | 伊藤隆吉 |
| 東京帝大理學部助手 | 木内信藏 |
| 東京帝大理學部大學院特別研究室 | 佐藤 久 |
| 內務省國土局計画課 | 酉水孜郎 |
| 東京帝大理學部助教 | 多田文男 |
| 資源研究所々員理學博士 | 辻村太郎 |
| 東京帝大理學部教授 | 花井重次 |
| 東京高等師範教授 | 三野與吉 |
| 東京文理大助教授 | 村松繁樹 |
| 學習院教授 | 矢澤大二 |
| 陸軍氣象部、陸軍少佐 | 渡邊 光 |
| 文部省國民教育局 | 和田 清 |
| 東京帝大文學部教授文學博士 | 田中啓爾 |
| 東大助手 | 吉川虎雄 |

一 三 兵要地理研究課題決定要領

兵要地理研究課題決定要領
昭二〇、四、三〇
第一次會合
渡邊 ⑧

第一 戰爭地理誌		其ノ一 本土	
項目	研究着眼項目	研究主擔任	摘要(資料)
<p>(一) 帝國本土自體ノ軍需生產觀察</p> <p>(二) 帝國本土ノ自活自戰觀察</p>	<p>一、人口分布ヨリノ考察</p> <p>二、生食糧生産量分布圖ニヨル考察</p> <p>三、食糧自給圈ノ考察</p> <p>四、食糧生産實績ヨリノ考察</p> <p>一、工業立地問題、殊ニ地形・地質ヨリノ考察</p> <p>二、地下施設問題、殊ニ地形・地質ヨリノ考察</p> <p>三、資源分布ヨリノ判斷</p> <p>四、一般概況ニツイテノ意見</p>	<p>東京帝大木内氏</p> <p>文理大 田中氏</p> <p>國土局計画課 酉水氏</p> <p>東亞研 伊藤氏</p> <p>東大地理教室 (辻村氏指導)</p> <p>東高師 花井氏</p> <p>陸予士 新井氏</p> <p>(酉水氏)</p>	<p>農商省近年資料ヲ利用ス</p> <p>資料ノ關係上意見ニ止ム</p>
<p>(二) 戰略</p> <p>(イ) 地理的ニ見タル敵ノ本土分斷構想</p> <p>(ロ) 帝國本土ノ歴史的ニ見タル要域判斷</p>	<p>一、地形特性ヨリノ判斷</p> <p>二、敵側研究ノ傾向ヨリノ判斷</p> <p>三、本土住民ノ心意・思想上ノ地域差ヨリノ判斷(主トシテ史的の見地ヨリ)</p> <p>四、全右(主トシテ人文地理的見地ヨリ)</p> <p>(五、軍需生産地域の特性ヨリスル意見)</p> <p>本問題ハ全員研究スルモノトス</p> <p>作戰路及 戰政經路要點等ヨリ判斷ス</p>	<p>東大地理教室 (辻村氏指導)</p> <p>文理大地理研究 室(田中氏指導)</p> <p>文理大 三野氏</p> <p>東大 辻村氏</p> <p>學習院 村松氏</p> <p>東大 木内氏</p> <p>(酉水氏)</p>	<p>訪日米人地學者ノ研究其他歐米雜誌ノ日本地理研究發表ニ基ク(資料ノ關係上意見ニ止ム)</p>

誌地戦作二第					
戦作空航四	戦作上地三	戦作陸上二		般一戦作一	
(イ) 本土ヲ中心トシタル航空氣象上ノ特性	(イ) 機動、交通上ヨリ見タル本土兵要地理ノ特質觀察(補給的觀察ヲ含ム) (ロ) 對戰車戰團上必要ナル特ニ着眼スベキ本土ノ地形研究	(イ) 本土沿岸ノ港灣價值判斷 (ニ) 上陸防禦の見地ニ基ク本土地形ノ築城の觀察	(イ) 兵要氣象ヨリ見タル敵ノ本土上陸企圖判斷(時期、場所) (ロ) 本土海岸線ノ特質觀察ト上陸適地判斷	(イ) 本土沿岸ノ海岸地形ノ特質概観 (ロ) 本土沿岸ノ海岸分布圖ニヨル考察 (ニ) 主ニ海岸ノ水田、砂丘等ヨリスル本土海岸地形ノ考察(殊ニ(一)、(二)、(三)ノ(ロ)ノ觀點ヨリ)	(イ) 對上陸戦作上特ニ研究、検討ヲ要スベキ内地兵要地理諸元及其ノ特質 (ロ) 本土沿岸ノ海岸地形ノ特質概観 (ニ) 飛行場立地ト地形地質トノ相關ヨリ見タル判斷 (三) 基地設定ト自給自足上ノ耕地確保等トノ相關ヨリ見タル考察
一、一般の特性 二、對近海航空作戦(特攻隊出撃)ヨリ見タル特性 三、其ノ他	(一、(ロ)ノ(ロ)ノ二ニヨル研究)	(一、(ロ)ノ(ロ)ノ二、ニヨル觀察 (二、(一)ノ(ロ)ノ二、ニヨル觀察 (三、(一)、(ロ)ノ二ニヨル觀察(道路)	(一、(イ)ノ(一)、ニヨル考察判斷 二、主トシテ岬端性地形其ノ他海岸地物ニヨル考察(二)ニ關聯ス 三、本土沿岸、近海ノ島嶼ノ特性考察 (海岸、海底地形、後背地關係等ヨリノ判斷)	四ノ(イ)ト關聯考究ス (一、(イ)ノ(一)、ニヨル考察判斷 二、主トシテ岬端性地形其ノ他海岸地物ニヨル考察(二)ニ關聯ス 三、本土沿岸、近海ノ島嶼ノ特性考察	各般ニ互リテハ次項(ロ)及(二)ノ(ロ)ノ(一)、(二)ノ研究項目ニ關聯ス 一、本土海岸地形ノ特性別概観 二、主ニ海岸ノ水田、砂丘等ヨリスル本土海岸地形ノ考察 (殊ニ(一)、(二)、(三)ノ(ロ)ノ觀點ヨリ)
氣象部 (徳川、矢澤 兩少佐)	(東大 多田氏)	東大 木内氏 (東大) (文理大)	陸豫士 新井氏 (東大 多田氏) (文理大地理研究室)	(東大辻村氏) 文理大地理研究室(田中、三野氏指導)	全 員 東大 辻村氏 東大 多田氏

誌地戦作二第		戦作空航四	
滿蒙文一環地區(東一ソ)、外内蒙、西北支那方面)ノ兵要地理の特質	獨一ソ)戰場(歐洲)ト東亞戰場(滿蒙東一ソ)トノ地形の差異及之ガ用兵上ノ交感性觀察	西北支那蒙古方面各種民族ノ利用價値の見地ヨリスル其ノ動向觀察	東亞ニ於ケル米英一ソ)關係ノ歴史の並ニ地政學的考察
一、飛行場立地ト地形地質トノ相關ヨリ見タル判斷 二、基地設定ト自給自足上ノ耕地確保等トノ相關ヨリ見タル考察	其ノ二ニ陸	一、特ニ乾燥地帯ノ地形特性(機動性補給性)ノ考察 二、地形特性全般殊ニ築城性防禦の見地ヨリノ考察	特ニ一ソ)聯ノ東亞侵略方圖ノ諸般ノ見地ヨリスル考究
東大 佐藤氏 東大 木内氏	東大 多田氏 東高師 花井氏	東大 辻村氏 文理大 田中氏	東大東洋史 和田氏 全員研究課題
			民族研其ノ他ト連絡ス
提出期日ハ五月十三日トス(一部中間報告ノ作業ヲ含ム)			

一 四 謝礼金支拂相成度件

謝礼金支拂相成度件

昭和二十年八月八日

第六課 渡邊

總務課長殿

(花押)

別紙要領ニ基キ決号作戦準備ノ爲必要ナル兵要地理ノ調査研究ヲ在京各専門マ家ニ依頼セシ処八月中旬概テ完成シ軍ニ貢獻セルトコロ大ナルモノアリ 謝礼金トシテ別表ノ如ク支拂相成度

一五 帝國本土分布図目錄

資料	完成資料	目錄	摘要
本土ニ於ケル上陸適地トシテノ砂浜概況	多田文男	東大	東大關係全般指導 辻村博士 助手ニハ研究室ニ 在ル学生ヲ含ム
本土周辺主要島嶼ノ調査	佐藤久	東大	
海岸地形ノ特質概況	吉川虎雄	東大	助手ニハ研究室ニ 在ル学生ヲ含ム
内陸地動價値判断図	木内信藏	東大	
食糧關係資料	伊藤隆吉	東大	助手ニハ研究室ニ 在ル学生ヲ含ム
活用可能道路網圖(間道)	西水孜郎	東大	
食糧關係資料	田中啓爾	東大	助手ニハ研究室ニ 在ル学生ヲ含ム
隔海度図	三野與吉	東大	
米英(ソ)ノ東亞政策ノ究明	京都帝大	東大	小牧実繁博士以下 七名
帝國本土ニ於ケル要域觀察判断	小牧博士	東大	

所屬	氏名	支拂金額(円)
東京帝大理学部助教、資源研究所々員	多田文男	一〇〇〇
東京帝大理学部大学院特別研究室	佐藤久	一〇〇〇
東京帝大助手	吉川虎雄	一〇〇〇
東京帝大理学部助手	木内信藏	一〇〇〇
東亜研究所々員	伊藤隆吉	一〇〇〇
内務省国土局計画課	西水孜郎	一〇〇〇
東京帝大理学部教授、日本地理学会副会長	辻村太郎	一〇〇〇
東京帝大地理学研究室	(代表 辻村太郎)	一〇〇〇
東京文理大教授	田中啓爾	二〇〇〇
東京文理大助教授	三野與吉	一〇〇〇
東京文理科大学地理学研究室	(代表 田中啓爾)	五〇〇〇
京都帝國大学教室	(代表 小牧実繁)	一〇〇〇

計 三、五〇〇円也

番号	一、上陸作戰關係	圖名	著者	備考
1	✓	本土ニ於ケル砂丘分布図	多田文男	艦砲射撃資料
2	✓	本土上陸適地及重要道路網概見図	多田文男	
3	✓	隔海度図	三野與吉	
4	✓	本土海岸線濕地帯概定図	多田文男	
5	✓	本土砂丘海岸	多田文男	
6	✓	一、鹿島灘―九十九里浜	多田文男	
7	✓	二、駿河湾田子ノ浦	多田文男	
8	✓	三、遠州灘	多田文男	
9	✓	四、東京湾船橋附近	多田文男	
10	✓	五、駿河湾沼津附近	多田文男	
11	✓	六、東京湾東京東北部	多田文男	
12	✓	本土沿岸島嶼分類図	佐藤久	
13	✓	本土周辺重要島嶼概見図	佐藤久	

二、道路網關係	一覽總図	田中啓爾
1	活用可能道路網圖	1
2	内陸盆地及谷盆地圖	2
3	活用可能道路網圖	0
4	五枚ノ中其ノ一	0
5	北部軍管區	0
6	東北軍管區	0
7	中部軍管區	0
8	東海軍管區	0
9	西部軍管區	0
10	北部軍管區	0
11	中部軍管區	0
12	東海軍管區	0
13	西部軍管區	0
14	北部軍管區	0
15	東海軍管區	0
16	西部軍管區	0
17	活用可能道路網圖	0

<p>食糧關係</p> <p>1 府縣別給養可能過不足判断図</p> <p>2 府縣別人口、可容人口対比図</p> <p>3 軍管区別給養可能人口過不足判断図</p> <p>4 府縣別米生産量図(昭十六年)</p> <p>5 府縣別米消費量図(昭五—十年)</p> <p>6 府縣別対耕地人口密度図(昭十九年)</p> <p>7 府縣別人口分布図(昭十九年)</p> <p>8 府縣別人口増加率図(昭五—十九年)</p> <p>9 府縣別人口密度図(昭十九年)</p> <p>地方別食糧需給量図</p> <p>地方別人口疎開計畫図</p> <p>府県別蛋白質資源過不足判断図</p> <p>府県別大豆収量分布図</p> <p>府県別大豆配給量分布図(昭十八、十九、九)</p> <p>(別二田中先生「食糧關係資料」)</p>	<p>活用可能道路網図</p> <p>東北軍管区北部 1—20万</p> <p>中央部 "</p> <p>南部 "</p> <p>東部軍管区東京近傍 "</p> <p>東部東海兩軍管区 "</p> <p>(甲、信、駿、参) "</p> <p>(信越、富山、岐阜) "</p> <p>中部軍管区近畿 "</p> <p>中国軍管区東半 "</p> <p>西半 "</p> <p>四國軍管区 "</p> <p>西部軍管区 1—20万</p> <p>補遺 "</p> <p>東部軍管区 "</p> <p>京都—×× "</p> <p>敵上陸地点ニ対スル我方後方連絡價值判断図 (鉄道ノ部)</p> <p>敵上陸ニ対スル内陸機動價值判断図 (道路ノ部)</p> <p>鐵橋間ノ間隔分布図</p> <p>内地主要道路及峠分布図 (主要道路縦断図)</p>
<p>伊藤隆吉</p> <p>東大地理</p> <p>伊藤隆吉</p> <p>東大地理</p> <p>西水孜郎</p> <p>東大地理</p> <p>東大地理</p>	<p>田中啓爾</p> <p>東大地理</p> <p>田中啓爾</p> <p>東大地理</p>

<p>一般地誌図</p> <p>北部軍管区 1—20万</p> <p>中部軍管区 "</p> <p>西部 "</p> <p>四國 "</p> <p>濟州島及九州沿岸島嶼 1—5万</p> <p>鐵道兵要地誌図</p> <p>關東南部地区</p> <p>東海南部ノ一部</p> <p>西部軍管区</p> <p>其ノ他</p> <p>秩父附近地質概見図</p> <p>本土海岸線ノ上陸作戰の觀察</p>	<p>部内作業之部 図 名</p> <p>兵要地理諸元表</p> <p>帝國本土ヲ中心トスル氣象概見図</p> <p>本邦氣象要覽資料</p> <p>帝國本土ヲ中心トスル航空氣象一覽圖</p> <p>帝國本土上陸ニ關スル兵要氣象の觀察</p> <p>兵要氣象的二見タル上陸作戰觀察</p> <p>帝國本土ヲ中心トスル海上強風概見圖</p> <p>帝國本土ヲ中心トスル氣象概見表</p> <p>支那沿岸ヲ中心トスル氣象概見表</p> <p>裏日本作戰ノ兵要地理の觀察</p> <p>沿岸地域ノ縣別食糧自給可能表</p> <p>飛行場 同適地、空挺部隊降下適地圖 (一〇〇万分ノ一)</p> <p>東北、東部、東海 同右 其ノ一</p> <p>軍需資源分布圖 其ノ二</p> <p>重要工場分布上ヨリ觀タル要地ノ重要順位圖</p> <p>重要工場分布圖</p> <p>航空關係重要工場分布圖</p>
<p>完成</p> <p>完成</p> <p>完成</p> <p>完成</p> <p>印刷中</p>	<p>作業進行狀態</p> <p>印刷完了</p> <p>六—十月印刷完了</p> <p>十一—五月印刷中</p> <p>三—八月印刷完了</p> <p>九—十一月印刷中</p> <p>印刷中</p> <p>下半年期</p> <p>會同時利用</p> <p>(不十分)</p>

二 終戦時における地図等の焼却処理に関する資料

発信者 總務課長

二一 陸軍秘密書類焼却二関スル件「軍事機密」

軍事機密

大本營陸軍部 參密第貳號第六貳六

陸軍秘密書類焼却二關スル件

昭和二十年八月十五日

參謀 總長

陸軍秘密書類其ノ他重要ト認ムル書類（原簿共）ハ各保管者ニ於テ焼却セシムヘシ但シ最后迄暗號電報ヲ發受シ得ル如ク措置シアルヲ要ス焼却報告ハ不要ナリ

二二 情勢ノ變転ニ伴フ作戰用地圖處理要領ノ件通牒「軍事機密」

軍事機密

發送番號 大本營陸軍部 參機第11號第3

發送月日 昭和20年8月19日

宛名 第一、第二總軍、北部軍、航總 參謀長 陸地測量部長

氣象部長 陸軍省副官 教總庶務課長

史実調査部長 東部三十三部隊長 内鉄參謀長

大本營通信隊長

件名 情勢ノ變転ニ伴フ作戰用地圖處理要領ノ件通牒

連帶課長 總務課

首題ノ件ニ關シ參密第二號第六二六通牒ニ拘ラズ別紙ニ依リ處理スルコトニ定メラレタルニ付依命通牒ス

追而處理濟ノモノハ此ノ限りニアラザルニ付申シ添フ

別紙

情勢ノ變轉ニ伴フ作戰用地圖處理要領 ㊦

一、參謀本部

イ、内邦地形圖中軍事極秘タルニ一、一万、五千分ノ一圖及滿洲、「ソ」

領、關東州ノ十万、五万、二万五千、五千分ノ一ノ軍事極秘以

上ノ地圖竝ニ各地域ノ兵要地誌圖ハ焼却ス

ロ、内邦地形圖中軍事極秘（戰地ニ在リテハ極秘）及軍事極秘（戰

本土沿岸島嶼分類圖	地理
本土周辺重要島嶼概見圖	地理
活用可能道路網圖一覽總圖 1/200万	交通
敵上陸ニ對スル内陸機動價值判断圖(道路ノ部)	交通
内地主要道路及峠分布圖(主要道路縦断圖)	交通
府縣別給養可能過不足判断圖	食糧
軍管區別給養可能人口過不足判断圖	食糧
府縣別米生産量圖(昭和十六年)	食糧
兵要地理諸元表	
帝國本土ヲ中心トスル氣象概見圖	氣象
本邦氣象要覽資料	氣象
帝國本土ヲ中心トスル航空氣象一覽圖	氣象
裏日本作戰ノ兵要地理的觀察	地理
飛行場、同適地、空挺部隊降下適地圖(1/100万)	航空
東亞、東部、東海同右(1/20万)	
軍需資源分布圖 其ノ一	資源
軍需資源分布圖 其ノ二	資源
重要工場分布上ヨリ觀タル要地ノ重要順位圖	工業
重要工場分布圖	
本土海岸線ノ上陸作戰的觀察	地理

三 陸地測量部組織の処理と内務省地理調査所設立に関する資料

三 一 終戦二件ノ陸地測量部処理要綱案「極秘」

極秘 意見具申案

終戦に当り陸地測量部処理要綱案

渡邊少佐(案)

今次終戦はポツダム宣言無条件承認なるを考ふるに於ては軍の一部の機構、組織、単位は存在を許されず解散せらるべきは必至の事なるべし。陸地測量部亦帝國陸軍の管下にある編成機構にして此れに従事するもの亦軍人軍属なるに於ては当然機構としての陸地測量部の解散及軍人軍属の身分剥奪処分せらるべきは悲しむべき事乍ら予想し居らざるべからず。此際吾人は軍人軍属たるを問はず終戦の現実を直視し軍に従事したる責任を素直に痛感し一切の個人の感情を忍びて国家百年の大計を痛思せざるべからず。

本職陸地測量部管轄の任にあり茲に半歳測量部の軍に対する貢献と又測量部に対する配慮とに於て日夜腐心せるも微力至らず今茲に於て思ふは一は国家今後のためと一は測量部に従事する職員の身分保護の事なり。即ち今次終戦が悲しむべき現実面に直面せるも国家永遠の生命を思はば吾皇国の運命は幾多の変遷を経て永久の生命を伸長せしむべきは現代に生を享けし日本国民としての責務ならずして何ぞや。

況や大戦乱に依つて結果づけられしものは国土の荒廢戦災の甚大なる事

なり、この永遠の吾等が国土をせめて復興せしむべきは、少くとも復興の基礎を確立せしむべきは米軍の進駐を必至とすると雖も最少限の吾人の責任に非ずして何ぞや。何くんぞ此時に於て悲歎に暮れ自暴自棄に走り感傷に一身を窶す時期に非ざらむや。特に此の際着目すべきは近く米軍の進駐を聖土に迎へんとす。遺憾乍ら現実なるべし。

一度米軍進攻し来らばその後には於て陸地測量部の機構を新たに考慮するが如きは絶対に考へざる許されざること言を俟たざるべし。

即ち敢へて本職進言せん、終戦の聖詔下りたる上は一日も早く国土の復興のための必須機構たる陸地測量部を平時編成の官庁に移管し米軍の進駐し来らば既にその機関がある事を以て認識せしめ交渉せしむべきなり、その事自体この未曾有の情勢下に至つては至難中の至難事なるべし。不肖も此れを良く承知す、されど是國家再建のためなり。不肖身命を抛つても本企図を成就せしめずんば止まず。

幸に部長閣下以下有志の御鞭答有り

終戦は余りにも痛烈にして混沌たり。今後の推移も判断し難し。今茲にかゝる意見を具申するも或は夢物語と称し或は間抜け者と言はるやも知れず。されど本職の忠誠希くば最後の意見として関係各位の御許容御賛意賜り度し。

更に此の考へに刺戟するは本職の管轄下にある測量部に従事する職員の生命と身分の保護なり。特に軍属、雇員の事は尚更の事なり。但し現機構の運営を此の儘停止せしめず活動せしむるためにはそのまゝの編成機構を以て移管せしめざれば機能停頓も多からむ。少くとも暫時は此れを

継続し可成早期に軍人は姿を消すべきなり

茲に於て直に移管せんとせば内務省管下に入れるか内閣直轄にするを可とせん、又此際本職の過望なるやも知れざるも移管決定せば前述の趣旨を兼ねて「陸地測量部」なる名称を改め別名として存続せしむるを可とせむ、殊に従来本職此種職務を大本營に任うて種々改めたき事もあり、此れについては他日許さるれば別に意見したし、憶々悲痛の現実にありて深夜眠られず心腸乱れて混沌たるも微心思うは邦家の前途たり、今茲に邦国永久の生命を祈念して本意見書を具申する次第なり

昭和二十年八月十七日深夜 渡邊參謀[㊦]

[注]

本件は渡邊の輩下の者に浄書せしめ、直属上官の第二部長有末中將に進呈す

三二 地理調査所關係事項中担任實施業務概容

地理調査所關係事項中擔任實施業務概容 昭二一、三

- 一、本邦以外ノ大東亞作戰地域内ニ於ケル作戰用地圖ニ關スル事項中
 1. 大東亞地域内全地圖ノ整備ニ關スル企畫運用事項
 2. 作戰用地圖ノ蒐集整備ニ關スル事項
 3. 作戰ニ使用セル地圖整備ノ狀況調査ニ關スル事項
 4. 特ニ滿洲、支那ニ於ケル地圖整備ノ意見聴取ニ關スル事項
- 二、外地(關東軍、支那、南方、朝鮮等)測量部隊及測量ニ關スル事項
 1. 外地測量部隊ノ復員ニ關スル事項
 - 聯合軍ニ對スル接衝ニ關スル事項
 - 復員、退職援護ニ關スル事項
 2. 大東亞作戰地域内測量ノ企畫運用ニ關スル事項
 - 三、終戰事務ニ伴フ聯合軍指令ノ作業ニ關スル事項
 1. 戰史編纂ニ要スル各種地圖ノ整備
 2. 各種聯合軍ノ指令ニヨル作業用地圖ノ整備
- 現在實行中ノ事項
 - 支那滿洲ノ地理、地質、經濟狀況等ノ調査
 3. 資料整備ニ關スル事項
- 四、本土兵要地理整備ニ關スル事項

四 戦後進駐軍との折衝に関する資料

四一 兵要地理調査ニ關スル回答資料

兵要地理調査ニ關スル回答資料

一九四六、四、一五

日本兵力要地理研究ヲ實施セル主ナル國ニ就テハ日本軍ハ過去ニ於テ主トシテ「ソ」聯、支那（滿洲含ム）ヲ重點トシテ諸調査研究ヲ實施シアリテ、米英（各領土ヲ含ム）ニ關シテハ本「太平洋戦争」勃發以前殆ト之ヲ研究ヲ實施シアラス

從テ濠洲、印度、布哇、「アリュウシヤン」、新西蘭、「ニューギニヤ」等ハ殆ト太平洋戦争後調査研究セラレタルモノナリ

而シテ之等兵要地理的研究資料ノ發刊物ノ概要ニ就テハ別紙記載ノ如シ而シテ之等米英ニ關スル研究業務ハ參謀本部内ニ在リシ米英班ナルモノカ十數年前ヨリ實施シアリタルモノナリ

又如何ナル收集方法ニ依テ之等ノ研究ヲセシヤ及獨逸ヨリ之等情報ノ入手ニ關スル事項等ニ關シテハ既二一九四六年一月三十日聯合軍最高司令部發「帝國軍情報勤務ニ關スル質疑回答資料」ニ詳述シアリ又同司令部防諜部（C・I・S）宛（「マツシユース」少佐「ラリイ」少佐）ニ屢々報告シアリテ詳細ナル事項ハ之ヲ參照セラレレハ諒解セラルルモノト思料ス

尚別ニ此等兵要地理研究ノ要領方法及地理的研究資料ノ發刊物ニ關シテ別紙ノ如ク報告ス

兵要地理調査ノ要領

(一) 前言

一、兵要地理調査ノ目的ハ各地方ニ於ケル兵要地理の狀況特ニ其ノ特性ヲ明カニシ以テ作戰並ニ戦争指導ニ關スル具體的判斷ノ資料ヲ收集スルニアリ

二、實查並ニ之ニ準ズル正確ナル調査ヲ實施シ得ル範圍及戰場タルノ公算大ナル方面ノ調査ニ在リテハ作戰ノ要望ヲ充足シ得ル如ク最モ詳密具體的ナル資料ヲ收集シ其ノ他ノ地區ノ調査ニ在リテハ對手國ノ國勢特ニ戦争遂行能力及第三國トノ關係等ヲ判定シ之ヲ施策ヲ適正ナラシムル爲ノ資料ヲ收集スルコト緊要ナリ

(二) 兵要地理調査上着意スベキ用兵の觀察

一、以下述ブル兵要地理調査諸要目ニ關スル左ノ如キ作戰的及國防的觀察ヲ以テ之ヲ統合調査スルモノトス

二、1. 作戰軍ノ兵力、編制、編組並ニ裝備

作戰地方ノ地形、交通、宿營、給養、給水、衛生、氣象等ノ特性ヨリ觀察シテ作戰シ得ル兵力ハ幾何ナリヤ其ノ兵種ノ配合、後方機關ノ種類及配屬ハ如何ニスベキヤ現用編制裝備ノ適否並ニ其ノ改善策如何或ハ特殊ノ編制裝備ニ關シ考慮スベキ點ナキヤ等ニ就キ記述スルモノトス

2. 作戰地方ノ特性ニ應ズル作戰要領

作戰地方ノ地理的並ニ其ノ他ノ特性ヲ巧ミニ把握活用スルト共ニ其ノ不利ヲ除却スベキ作戰要領ニ關シ記述スルモノトシ

テ機動、戰鬪、航空、宿營、後方機關、交通等ヨリ諜報、謀略、宣傳、治安維持等ニ迄瓦ルヲ要ス

3. 國防の見地ニ基キ戰爭指導上必要ナル兵要地理諸項目ヲ研究
調査シ政戰兩略ノ遂行ニ遺憾ナキヲ期スルモノトス

(三) 兵要地理調査諸要目

其一 作戰上必要ナル調査要目

(A) 自然地理

一、地 勢

二、地 形

1. 山地及平地

2. 河川(運河)、湖沼及濕地

3. 森林

4. 耕地及耕作物

5. 海岸(港灣ヲ含ム)

三、地 質

四、氣 象

(B) 人文地理

五、交 通

1. 陸 運

道路

自動車

鐵道

地方運搬材料

2. 水 運

六、通 信

電 信

電 話

七、航 空

郵 便

飛行場

防空施設

爆撃目標

八、築 城

民間航空

陣地構築

九、衛 生

要塞

一〇、宿營給養

一一、其他必要事項

其ニ 戰爭指導上(國防上) 必要ナル調査要目

一、資 源

礦物、燃料、工業藥品、油脂類、動物纖維及皮革類、植物

纖維等

二、工場事業場

三、經濟狀態

1. 財政、税制、金融、貨幣

2. 産業

農業、工業、鑛業等ノ状態

3. 商業貿易等

四、住民、教育、思想、宗教

五、行政司法

六、運輸通信

七、其他必要事項

兵要地理的研究資料ノ發刊物ノ概要ニ就テ

(A) 米英關係

(イ) 馬來兵要地誌

緬甸兵要地誌

比島兵要地誌

大戦開始前調製シ占領後現地軍(南方軍

及各現地占領軍)ニ於テ資料ヲ整備ス

「ジャワ」島兵要地誌

「スマトラ」島兵要地誌

「ボルネオ」島兵要地誌

「アリューシャン」兵要地誌

大戦開始前ハ極メテ不備ナリシ

モ占領後現地軍ニ於テ整備或ハ

整備中

(ロ) 佛印、泰等現地軍ニ於テ着手シアリシモ十分完成セス

「ニューギニヤ」方面及其他未開島嶼ハ現地軍ニ於テサヘ交通不便

ノ爲十分ナル資料ヲ得ス

(ハ) 南洋諸島ハ主トシテ海軍ノ資料ニヨリタルモ陸軍部隊ノ配兵ニ伴

ヒ逐次整備セラレ左ノ如キモノアリ

「マリアナ」「パラオ」「小笠原」「伊豆七島」兵要地誌其他委任統
治諸島、沖縄兵要地誌資料圖

(ニ) 右ハ主トシテ五萬及十萬分一地形圖ニヨリタルモノニシテ空中寫
眞ヲ利用シタルモノ少ナシ

(ホ) 地圖ハ地上作戰用トシテ十萬分一ヲ主トシ五萬分一、二十萬分一、
五十萬分一、航空作戰用トシテ百萬分一、二百萬分一、四百萬分
一等ヲ整備使用セリ

十萬分一(五萬分一)地形圖ハ分隊長以上ニ支給スル如ク努力セ
ルモ南方諸地域ニ於テハ概ネ不十分ニシテ或ハ小隊長級以上ノ配
布ニ止マリタル程度ノモノアリ

(ハ) 一般ニ地形圖ニ關スル印刷ハ馬來「ジャワ」方面ニ於テ一九四四
年頃迄ニ完全ニ終了セルモ「ニューギニヤ」「ソロモン」及其他ノ
未開地方面ニ於テハ作戰ノ間ニ合ハス極メテ不備ナル狀況ニテ推
移セリ

是等地形資料ノ配布ハ比較的の不備ニシテ師團ニ對シ少クモ小隊長
以上ニ普及スル如ク考慮セラレタルモ實際ニ於テハ不足スルコト
多キヲ以テ各々師團ニ於テ必要ナル部數ヲ請求配布セラレタリ

(B) 支那關係

地形的及地理的資料ハ支那全土ニ亘リ(一部ノ奥地ヲ除ク)戰時中概
ネ「各省兵要地誌」トシテ整備セラレ必要ナル部隊(概ネ師旅團)迄
配布セラレタリ

現地軍ハ更ニ之ヲ解説シテ「作戰地誌資料」トシテ補修シ概ネ中隊
迄配布シアリタリ

尚地圖ニ關シテハ支那方面ニ在リテハ概テ各小隊單位毎ニ到達スル
 如ク整備セシモ諸種ノ事情ヨリシテ其實績ハ之ニ及ハサリシコト
 往々アリタリ特ニ進攻作戰時ニ於テハ輸送、交通ノ關係ヨリ聯隊ニ
 辛フシテ數部到達セシガ如キ實情ニアリタリ

兵要地誌調製書類目錄ノ一例

其一支那

- 1 江西省兵要地誌概説
- 2 廣東省兵要地誌概説
- 3 廣西省兵要地誌概説
- 4 湖南省兵要地誌概説
- 5 雲南省兵要地誌概説
- 6 南支那兵要地誌軍用資源概説
- 7 海南島概説
- 8 山東省兵要地誌概説
- 9 河南省兵要地誌概説
- 10 陝西省兵要地誌概説
- 11 贛湘地方(湖南省・江西省)兵要地誌概説
- 12 黄河兵要地誌概説
- 13 平漢沿線兵要地誌概説(第一卷)
- 14 支那飛行場全圖

- 15 平津地方(河北省北部)兵要地誌概説
- 16 廣東省兵要地誌概説
- 17 雲南省兵要地誌概説
- 18 海南島(瓊崖)事情
- 19 自隴海鐵道(主トシテ歸德以東)至揚子江下流(主トシテ南京以東)間兵要地誌概説
- 20 上海及南京附近兵要地誌概説
- 21 山東省兵要地誌概説
- 22 湖北省兵要地誌概説
- 23 甘肅省事情
- 24 西康省事情
- 25 貴州省兵要衛生地誌
- 26 西北支那兵要衛生地誌
- 27 青海省事情
- 28 東粵地方(汕頭附近)兵要地誌
- 29 中支那兵要獸醫衛生誌
- 30 南支那兵要衛生誌
- 31 四川省兵要地誌概説
- 32 北海南寧附近兵要兵誌概説
- 33 中支那航空兵要地誌
- 34 重慶政權地區工廠分布概見圖
- 35 重慶政權地區工廠一覽表
- 36 直隸省兵要地誌

- 37 雲南省兵要衛生法
- 38 北支蒙疆ニ於ケル自動車ニ關スル調査
- 39 福建省兵要地誌
- 40 陝西省兵要地誌概説
- 41 山東省航空兵要地誌
- 42 熱河省兵要地誌
- 43 浙江省兵要地誌
- 44 中支那飛行場調査圖

其二 滿洲

- 1 北滿洲西部兵要地誌
- 2 滿洲及ウスリー地方 航空兵要地誌
- 3 北滿洲中部兵要地誌
- 4 東「ソ」軍後方準備調書
- 5 極東「ソ」領資源兵要地誌
- 6 「ソ」軍國境築城情報記録
- 7 滿洲東北部兵要地誌概況
- 8 極東ソ領資源要覽
- 9 北滿洲東部兵要地誌
- 10 南樺太兵要地誌
- 11 極東ソ領兵要資源便覽
- 12 ソ聯邦ノ國防經濟(附表)
- 13 極東ソ領主要道路ノ狀況

其三 南方、印度等

- 14 極東ソ領道路調査誌
- 15 極東ソ領東北邊地誌要覽別冊
- 16 都邑圖集
- 17 後貝加爾方面兵要地誌附圖
- 18 極東ソ領沿岸築城情報記録
- 1 「ビルマ」及北部「スマトラ」ヨリ印度東岸ニ向フ
航空路ノ氣象的觀察
- 2 印度重要資源關係圖
- 3 南方港灣要目一覽表
- 4 東部印度地方兵要地誌資料
- 5 蘭印ニ於テ利用シ得ベキ工業ニ關スル追加資料
- 6 「ジャワ」島ニ於ケル鐵道ノ輸送力判斷
- 7 緬甸事情
- 8 蘭印事情
- 9 英領馬來事情
- 10 アリウシヤン群島事情
- 11 「ヤツプ」島兵要地誌資料
- 12 蘭領印度支那飛行場要覽
- 13 南方港灣地誌(濠洲)
- 14 印度軍需資源ノ參考資料
- 15 蘭印ニ於ケル築城施設ニ關スル資料

其四 日本本土

- 1 伊豆諸島兵要地誌
- 2 小笠原諸島兵要地誌
- 3 琉球兵要地誌圖
- 4 東部軍管區事情
- 5 大島兵要地誌
- 6 其他

(註) 以上ハ調製セルモノノ一部ニシテ大部ハ終戰直後大部分

焼却シ其ノ残部及記憶ニアルモノヲ記述セシモノナリ

五 兵要地誌に関する資料

五 一 日本本土兵要地誌調査要領に対する私見

日本本土兵要地誌調査要領に對する私見

昭和二十四年六月二十三日

渡邊 正

(一) 全般的意見

一、自然、人文地理要素全般に亘り、漏れなく調査すると共に、且、之に依つて究明せらるべき其の重点につき明瞭ならしむることが必要であろう。

即ち、地形、地質、土壤、陸水（河川、湖、沼澤、地下水）、氣候、海洋氣象、地下資源、特に海岸地形の自然地理要素より運輸、交通、通信、都市、住民地、住民、港灣、衛生、乃至は農業、工業、經濟、教育思想、歴史地理等の人文地理要素諸般に亘り、普く要點を把握し、之等を通し特に之等による日本本土の特質より來る考慮と海正面に對する考慮を重点として、之に必要なものを詳述する如くするを可とする。

二、調査目的は全般及各地方に於ける兵要地誌狀況特に、其の特性を明らかにし、以て、戰爭並びに作戰指導上必要な具體的判斷の資料を収集することゝ明示することが必要である。即ち、特定の假定、假説を設けずして、一般的に見たる戰爭指導上（總

(二) 調査項目、私見

動員用）必要な事項及作戰指導上（用兵戰術用）必要な事項に則應するが如き着眼と内容を以て、調査することが必要であると思惟する。

左に記す案は目的分類よりも、本質的な地理要素を掲げ、之を重点的に取捨したものである。

第一類

一、地勢

二、地形—山地、平地、植被、並に土壤

三、海岸地形—砂丘、岬端性地形、海底地形、土質、濕地及後背地

四、地質

五、陸水—河川、湖、沼澤、濕地

六、海岸—潮汐、海流、沿岸潮流

七、氣象

第二類

一、交通—陸上交通、水運

二、通信—電信、電話、郵便、放送

三、航空—飛行場、同施設、航空適地、爆撃適目標、等

四、都市、住民地及住民—主要都市、一般住民地、住民（種類、特

質、程度等）宿宮及給養價值

五、衛生—水、傳染病、風土病、住民衛生思想、施設

六、資源—總動員用資源につき調査する（詳細略す）

七、農業—特に食糧自給圏の觀察

(三) 其の他

1. 調査指示は凡て兵要地誌圖表を以てすることを可とせん。
2. 右に要する規格を統一すること。
3. 調査要綱及之が遂行計畫を策立し、官民有識者の参加と小數有能の基幹人員とを以て運営すること。

以上

五 二 兵要地誌保管目録(史実部)「秘」

兵要地誌保管目録

史実部

- (氣象兵要地誌第六卷(本邦及隣邦))
- 航空氣象誌(氣候表) 第一卷(極東蘇領及滿洲蒙古)
- 東亜氣候調査(支那本土、台灣、比律賓、南洋諸島、馬來群島、東印度支那)
- 海洋及大陸ノ各方面ヨリ日本列島要衝ニ向フ航空氣象統計
- 同右、別冊、主要航空路ノ天氣分布及氣壓配置並氣候圖
- 極東「ソ」領東北辺地誌要覽、別冊、都邑圖集
- 本邦氣象要覽資料(五月份及六月份)

東「ソ」「ソ」軍配兵要覽附録(附圖及附表)

重慶政權地区工廠一覽表

雲南省兵要地誌概説

中支那兵要獸醫衛生誌

同 別冊

甘肅省事情

四川省兵要地誌概説

北支蒙疆に於ケル自動車ニ関スル調査 第一篇第四章附録

自動車運輸營業狀態明細表

英領馬來情報記録

「ソ」築參情第一號「ソ」軍國境築城情報記録

東「ソ」軍後方準備調書附録及附圖

雲南省兵要衛生誌

東粵地方(汕頭附近)兵要地誌

南方港灣地誌附圖(比律賓、英領馬來、泰國、佛領印度支那及緬甸)

東部印度地方兵要地誌資料

北支那航空兵要地誌

北支軍需輕工業原材料現地調辨ニ関スル調査報告書第二部

羊毛、毛皮、皮革別冊其ノ一附圖並ニ統計表(羊毛)

支那沿岸要點に於ケル氣象及潮汐ノ概要

蘇聯邦航空機要覽

五島列島兵要地誌

山東省兵要地誌概説

兵要地理調査参考諸元表 (其ノ一)
支那飛行場全圖

贛湘地方 (江西省湖南省) 兵要地誌概説

河南省兵要地誌概説

八丈島、大島、兵要地誌 附、青ヶ島、小島

大宮島兵要地誌資料

八丈島兵要地誌資料其ノ六 附 青ヶ島、小島

伊豆諸島兵要地誌資料 其ノ一 大島

黄河兵要地誌概説

廣東省兵要地誌概説

「アリウシアン」群島事情

昭和十六年十一月以降「チャーチル」演説集

陝西省兵要地誌概説

自隴海鐵道 (主トシテ帰徳以東) 至楊子江下流 (主トシテ南京以東) 間

兵要地誌概説

平漢沿線兵要地誌概説 (第一卷)

廣東省兵要地誌概説

英領馬來事情

泰國事情

緬甸事情

蘭印事情

平津地方 (河北省北部) 兵要地誌概説

大宮島「テニアン」島作戦ノ教訓

五三 兵要地誌調査要目 (元參謀本部渡辺少佐記述) 兵要地誌調査

要領ノ参考

兵要地誌調査要目

參謀本部

(兵要地誌班長) 渡辺少佐記述

兵要地誌調査要領ノ参考

第一篇 兵要地理

第一章 通則

一、兵要地理調査ノ目的ハ各地方ニ於ケル兵要地理ノ狀況特ニ其ノ特性ヲ明カニシ以テ作戦並ニ戦争指導ニ関スル具体的判断ノ資料ヲ収集スルニアリ。

二、實査並ニ之ニ準ズル正確ナル調査ヲ實施シ得ル範圍及戰場タルノ公算大ナル方面ノ調査ニ在リテハ作戦ノ要望ヲ充足シ得ル如ク最モ詳細具体的ナル資料ヲ収集シ其ノ他ノ地区ノ調査ニ在リテハ対手国ノ国勢特ニ戦争遂行能力及第三国トノ關係等ヲ判定シ之ガ施策ヲ適正ナラシムル為ノ資料ヲ収集スルコト緊要ナリ。

第二章 用兵の觀察

第一節 要旨

本篇第三章以下ニ記述スル兵要地理調査諸要目ニ関シ其ノ要旨竝ニ之ガ用兵の觀察ヲ適宜統合總括シテ判決のニ記述スルモノナリ

第二節 作戰軍ノ兵力、編制、編組竝ニ裝備

作戰地方ノ地形、交通、宿營、給養、給水、衛生、氣象等ノ特性ヨリ觀察シテ作戰シ得ル兵力ハ幾何ナリヤ其ノ兵種ノ配合、後方機關ノ種類及配屬ハ如何ニスベキヤ現用編制ノ適否竝ニ其ノ改善策如何或ハ特殊ノ編成裝備ニ関シ考慮スベキ點ナキヤ等ニ就キ記述スルモノトス

第三節 作戰地方ノ特性ニ應ズル作戰要領

作戰地方ノ地理的竝ニ其他ノ特性ヲ巧ミニ把握活用スルト共ニ其ノ不利ヲ除却スベキ作戰要領ニ関シ記述スルモノニシテ機動、戰鬥、航空、宿營、後方機關、交通等ヨリ謀報、謀略、宣傳、治安維持等ニ迄互ルヲ要ス

第三章 地形及地質

第一節 概説

一、全般（又ハ各地域）ノ地形及地質ニ関シ適宜概括シ戰略、戰術の結論ヲ判決のニ記述ス

二、地勢ノ大觀、地形ノ特性等ニ基ク要點要線ニ就キ戰術の觀察ヲ主トシテ攻防戰鬥ニ關スル具体的地形判断ヲ記述ス

第二節 山地及平地

一、起伏ノ状態、高地谷地ノ比高、平地或ハ山頂稜線谷地ノ景況、斜面ノ状態、樹草生育ノ狀況、地隙ノ状態、土質、地質ノ種類影響等、

二、軍隊ノ展開、運動、指揮、連絡、展望、射撃及方向維持ノ難易、飛

行機ノ離着陸、化学戰ニ與フル交感等作戰ニ及ス地貌ノ影響、

第三節 地質

一、地質ノ種類、状態竝ニ曹達質等特種ナル地質、

二、地質ノ諸兵ノ行動、築城、彈丸効力等ニ及ス影響、

三、天候季節ノ地質ニ及ス影響特ニ雨期、結解氷期ノ状態、降雨（雪）後乾燥ニ要スル日數、風塵ノ時期竝ニ其ノ景況

第四節 道路

第一款 道路網

一、調査区域ヲ成ルベク一括シテ地図ニ依リ或ハ要図ヲ以テ道路網ノ状態ヲ明瞭ナラシムル如ク記述ス

二、實查竝ニ之ニ準ズル正確ナル調査ヲ實施シ得ザル範圍ノ道路網（建設計畫ヲ含ム）ノ状態ハ小梯子地図ヲ以テ明瞭ナラシムル如ク記述シ資本關係、完成日時、價值等ヲ附記ス

第二款 道路價值

若干ノ道路毎ニ適宜ノ梯子ノ道路調査図ヲ調整シ左記事項ヲ註記ス

一、作戰の價值ニ關スル判決（沿道地区ノ宿營、給養、燃料、給水等ノ該道路ノ作戰の價值ニ及ス影響ヲモ加味シテ考察シ特ニ季節ニ依ル價值ノ差異ヲ明カニスルヲ要ス）

二、道路ノ素質、路上路外各兵種通過ノ難易、天候季節ノ交感、難路トシテ著意スベキ局部、迂回路、不通部分ニ対シ之ヲ醫スル方法、補修管理法、特ニ長時日使用スベキ場合ニ於ケル維持ノ方法、修理材料、輕便鐵道敷設ノ難易、空中及地上ニ対スル遮蔽、著名ナル目標、橋梁其ノ他渡河點ノ景況、破壞阻絶ニ關スル件

- 三、各時季ニ於ケル行軍速度ヲ調査スルハ道路價值判斷上價值大ナリ
- 四、兵站企畫ノ參考等ノ爲公算大ナル某假想ノ下ニ補給竝ニ後方施設等ヲ研究報告ス

第五節 河川（運河）、湖沼及濕地

第一款 概説

地方ノ水系、湖沼、濕地ノ分布状態及其ノ特性

第二款 河川（運河）

- 一、作戰場ノ價值判斷
- 二、障害ノ程度、両側ノ地形、天候季節ノ交感特ニ増減水期ニ於ケル水幅水深流速、河底ノ状況、氾濫地域及其ノ景況、潮汐ノ影響、結氷解氷期間竝ニ其ノ前後ノ状態、流水ノ時期及結氷ノ状態
- 三、橋梁、渡船場、徒涉場ノ状態、架橋若クハ補修所要時間及材料ノ有無、破壊阻絶及氾濫ニ対スル觀察、渡河點トシテ選定スベキ地點竝ニ該地ニ於ケル河川及兩岸ノ景況、中洲等ノ存在ノ作戰上ニ及ス影響、進入進出ノ便否、渡河援護、開進地、渡河法、企圖秘匿法等河川戰鬪ニ関スル戰術及技術上ノ觀察

第三款 湖沼及濕地

- 一、作戰上ノ價值判斷
- 二、種類、分布ノ状態、障碍ノ程度、附近ノ地形、湖沼及濕地ノ接際部ノ状態、天候季節ノ交感、結氷ノ期間及其ノ状況
- 三、通過及利用ニ関スル考察

第六節 森林

- 一、作戰上ノ價值判斷及利用法

- 二、位置、分布状態、樹種、疎密（為シ得レバ平均樹間隔又ハ單位面積ニ於ケル樹數）、下樹草繁茂ノ状態及作戰ニ及ス影響（展望、通視、遮蔽、通過ノ難易特ニ倒木ノ状況、宿營上ノ價值）

第七節 耕地及耕作物

- 一、耕地分布状態、耕作物種類、繁茂刈取時期及其ノ状態竝ニ作戰及影響（展望、通視、遮蔽、通過ノ難易及宿營上ノ價值）

- 二、耕地ノ飛行場トシテ利用ノ能否

第八節 海岸及港灣

第一款 概説

- 大梯尺ノ要図ヲ調整シ上陸點トシテノ價值竝ニ揚搭効程ヲ判決ヲ以テ示シ理由ヲ述ブ

第二款 海岸及港灣ノ素質竝ニ設備

- 一、海岸及港灣ノ自然的要素
 - 1. 泊地及使用海岸
 - 2. 港（灣）口
 - 3. 水深
 - 4. 海底ノ地質
 - 5. 水面積
 - 6. 陸上ノ地形（陸上ノ餘地）
 - 7. 氣象、海象（風信、氣候、潮信）竝ニ此等ヨリ受クル影響
- 二、港灣ノ設備
- 三、港灣ノ現況及將來ノ觀察、築港又ハ港灣改善計畫、港則、物資集散ノ概況、出入船舶輸出入集積貨物ノ統計竝ニ將來ニ於ケル港勢判斷

第三款 海運資材

海運資材（炭水、燃料、油、職工、人夫、揚搭用材料及海運器材）ノ有無及之方収集法

第四款 上陸行動ニ関スル事項

一、敵前上陸ヲ豫期スル港湾又ハ海岸ノ調査ハ一般調査要領ノ外左記諸項ヲ顧慮スルヲ要ス

1. 上陸作戰遂行上便否

イ、作戰目標ニ向ツテスル進路竝ニ前進便否

ロ、敵配備竝ニ防備施設判断又ハ現況

ハ、掩護陣地ノ有無及適否、掩護陣地ト上陸スベキ海岸トノ關係竝

ニ之方迅速ナル攻略法

ニ、上陸直後ニ於ケル戦闘及運動ノ難易、軍隊集合場及爾後ニ於ケ

ル攻撃前進法

ホ、飛行場若クハ著陸場ノ有無特ニ附近島嶼等ニ之ヲ求メ得ルヤ否

ヤ

ヘ、上陸地ト上陸根據地トノ關係

2. 上陸實施上ノ適否

イ、陸海軍ノ協同特ニ航空部隊協力ノ便否

ロ、敵艦隊及敵航空機ノ根據地ヨリノ距離竝ニ敵ノ防備

ハ、輸送船隊防備ノ便否

ニ、海面ノ狀況（水路、泊地、風浪竝ニ潮流）

ホ、海岸ノ狀況（海岸ノ地形及地質、上陸可能海岸ノ幅員、舟艇達

著ノ良否、水際ニ於ケル波浪竝ニ潮汐干満ノ狀況）

ヘ、陸地ノ狀況（著名目標、彼我ノ據點タルベキ地點竝ニ進出路）

ト、地形図、海図、水路誌トノ相異

チ、水上ヲ通過シ上陸ヲ要スル海岸ニアリテハ其ノ結氷狀況及天候

氣象ノ交感竝ニ碎氷船ノ要否、使用要領等

リ、附近ニ上陸準備ヲナスニ便利ナル島嶼又ハ港湾ノ有無

二、上陸ノ爲水陸ノ交通通信等

三、宿營及給養

第四章 氣象

第一節 氣象ノ概況

一、地方氣象ノ特性、其ノ交感等ヲ概説シ之方作戰ニ及ス影響ヲ記述スルモノトス

之方為概述スベキ事項左ノ如シ

1. 雨期ノ始期終期及該期間中ニ於ケル降雨ノ狀態竝ニ乾燥期ノ狀況

2. 結（解）氷降雪期間及其ノ前後狀態、地面凍結深度、各季特ニ夏

季冬季ニ於ケル氣温、地表面温度、氣壓及濕度

3. 恒風其ノ他風向、風速及暴風雨

4. 霧、烟霧、黃沙、風塵等

5. 日出日没黎明薄暮ノ時間竝ニ其ノ特性

6. 特ニ作戰ニ及ス特異ナル氣象現象例ヘバ通視距離、夏季異常光象、

冬季吹雪ノ現象等ノ如シ

二、氣象ニ関スル報告ハ努メテ長期ニ亙ル統計ヲ基礎トスルヲ要ス

三、測定セル測候所ノ能力ニ依リ其ノ信用度ヲ異ニスルノミナラズ風向、

風速等ハ地形ニ影響セラルルヲ以テ其ノ他ノ經緯度竝ニ標高、爲シ

得レバ測候所附近ノ地勢ヲ示ス要因ヲ報告スルヲ要ス

四、天候氣象ニ對應スル為ノ土民ノ著意、施設等ニ関シ注意スルコト必要ナリ

第二節 氣象統計

一、氣温、地面温度、氣壓、濕度、風向、風速、降雨雪、霧、烟霧、黃沙、風塵、暴風雨、天氣統計、霜雪氷ノ初終期日及日出日没時刻等ニ関スル統計

二、地上氣象ニ関シテハ附表第一其ノ一二依リ、又高層氣象中高層風向、風速、高層氣温、濕度、氣壓等ニ就テハ附表第二其ノ一二依リ報告スルモノトス

三、風向、風速、氣温、氣温逆轉度、温度等ノ日變化ハ化學戰ノ爲必要ナルヲ以テ爲シ得ル限り詳細ニ報告スルヲ要ス就中風向ハ特ニ重要性ヲ有スルヲ以テ少クモ朝、晝、夕、夜ニ於ケル統計ヲ附表第二其ノ三ニ依リ報告スルモノトス

四、雲形、雲量、雲向、雲高、雲厚及霧、黃塵、雷雨等ノ狀況ハ航空氣象上必要ナルヲ以テ爲シ得ル限り詳細ニ報告スルヲ要ス

五、各地ニテ發表セラルル印刷物ニハ月報、年報及累年報ノ三種アリ此等ヲ手入報告スルコト亦必要ナリ（月報ハ其ノ月ノ毎日ノ値、年報ハ其ノ年ノ毎月ノ平均値、累年報ハ三年、五年、十年ノ平均値ヲ示セルモノナリ）

第五章 交通

第一節 陸上交通

第一款 鐵道

輸送力ノ判定、鐵道ノ管理運營利用及之ガ破壊、防護ニ関スル要件ヲ明カニスルヲ主旨トシ概ネ左記各項ニ從ヒ成ルベク要図、図表等ヲ用ヒテ記述ス

而シテ線路縦断面図及横断面図、各種術工物ノ經始断面図、車輛形式図、停車場平面図、列車運行図表、同時刻表、機關車牽引定數表、各種輸送統計表、工場能力一覽表、鐵道運轉運輸諸規則、鐵道新設計畫等ハ價値特大ナルヲ以テ之ガ力收集ニ努ムルヲ要ス

一、鐵道成立ノ歴史、鐵道管理機關ノ組織、重要人物ノ氏名簡歷、營業狀態ノ梗概

二、線路

線路ノ全長、軌間、軌道單複、軌條ノ重量、道床ノ種類及狀態、枕木ノ種類配置及補充系統竝ニ線路ノ勾配曲徑ノ狀態

重要線路術工物ノ狀態（特ニ橋梁隧道ノ位置長サ竝ニ設計ノ概要、橋梁ノ荷重）、附近ノ地形及之ガ防護施設ノ有無、破壞ノ難易、保線ノ狀態、修理材料、同置場及之ガ收集利用法

三、停車場（操車場）

停車場ノ配置、間隔及附近ノ地形特ニ軍隊集合場ノ有無、乘降及積卸場ノ構造及能力、側線ノ數及配置竝ニ其ノ有効長、機關庫、給水給炭設備ノ有無及其ノ能力、通信及保安設備ノ狀況

四、工場及附屬建築物

工場ノ種類、面積及配置、従業員、設備（特ニ使用器械ノ種類數量）、動力源、生産品作業ノ種類及能力、原料材料燃料ノ種類及補充系統等

五、従業員

従業員ノ業務別国籍別員數、勤務狀態、勤務時間、区域、勤務規則、賃金等並ニ補充養成方法、購売、診療組合ノ景況、思想系統及爭議ニ関スル事項

六、輪轉材料ニ関スル事項

機關車ノ形式及牽引定數、客貨車ノ形式(自車、定員、搭載容量、側板ノ構造等)、特殊車輛ノ有無、員數、配置、聯結器ノ樣式及高サ、制動機ノ樣式

機關車客貨車ノ種類(形式)別數量及其ノ配置

七、列車運行ニ関スル事項

一、列車ノ連結車數、車輛ノ換算率、線路容量、列車速度及走行距離、補助機關車ヲ使用スル区域等

八、輸送効程

軍隊輸送効程ノ判断(一日ニ輸送シ得ベキ軍隊輸送力及總距離ヲ以テ示ス)

九、軍事輸送ニ関スル事項

軍事鐵道輸送機關ノ組織系統及之ヲ鐵道管理機關トノ關係ヲ律スル法令規約又ハ慣例

軍隊輸送ノ実況特ニ列車組成ト軍隊ノ編成トノ關係

十、爆撃若クハ其ノ他ノ破壊ニ適スル施設ノ位置及狀態ヲ調査図示ス

第二款 自動車

- 一、自動車路、施設經營及運行ノ景況等一般ノ狀態及作戰上ノ價值
- 二、種類、員數並ニ従業員(運轉手、修理工)ノ狀態
- 三、製作、修理及補給工場ノ狀態並ニ製造及修理能力

四、收集利用法、外国勢力トノ關係

第三款 地方運搬材料(鐵道輪轉材料、船舶、航空機、

自動車ヲ除ク)及勞役夫

各種車輛、檣、橋ノ種類數量分布狀態、駄獸、擔夫其ノ他運搬ニ従事スル勞働者ノ性能、賃銀、收集數量並ニ利用法、運搬材料ノ工場及其ノ製造並ニ修理能力

第二節 水運

輸送力ノ判定、水運材料ノ收集數量並ニ其ノ利用法ヲ知得スルヲ主眼トシ概ネ左記各項ニ從ヒ記述ス(河川「湖沼運河」水運一覽圖「主要河川、湖沼、運河ノ素質航運狀況ヲ明示ス」ヲ附ス)

第一款 航行区域

一、可航区域(汽船及地方民船ニ分子又難航区ニシテ水先案内ヲ要スル部分ヲ特ニ明記ス)地勢ニ基キ可航区域ヲ更ニ數区ニ分子各区毎ニ船舶航行ノ目的ヲ以テ河川(湖沼、運河)ノ素質、兩側ノ地形、築設物等ニ関シ記述ス

二、季節天候、結(解)氷、潮汐等ヨリ受クル影響、特ニ流線(航路)變化ノ狀況並ニ可航期間

三、水路破壊ノ能否

第二款 運行

- 一、輸送効程ノ判断(輸送力及航行所要日數)
- 二、船舶ノ種類、構造、積載量、乗組員、航程、收集數量、收集利用ノ方法、通信特ニ無線通信ノ施設
- 三、汽船又ハ小蒸汽船ニ依ル航路ヲ有スルモノニアリテハ其ノ發起點、

終末點、寄港地、運營ノ狀況、船舶附屬従業員ノ国籍、思想、賃銀、組合ノ有無等

四、水陸連絡設備

五、公算大ナル設想ノ下ニ補給並ニ後方施設等ヲ研究報告ス

第六章 通信

軍事上利用シ得ベキ通信能力、破壊並ニ防護及通信戰就中通信線準備ニ關スル要件ヲ明カニスルヲ主旨トシ概ネ左記各項ニ從ヒ記述ス
一般ニ有線、無線共ニ外觀的写真ヲ添付スルヲ可トス

第一節 電信及電話

第一款 通信網

通信網圖(特ニ電柱及空中線ノ写真又ハ写景圖ヲ添フルヲ要ス)

第二款 有線電信及電話

一、線路圖及回線圖ヲ軍用、一般用、鐵道用等通信系ノ区分ニ從ヒ調製ス
二、主要ナル局ノ所在地「特ニ中央電信(電話)局」、各局連絡狀態、交換所ノ位置(回線圖ヲ附ス)

線路ト道路トノ關係、連絡スル主要都市並ニ沿線地形ノ概況

三、使用材料

通信機ノ種類、電線ノ種類、條數、建築方式(腕木式又ハ曲柄式)、建築材料(種類、長さ、太さ、新古)、最下電線ノ地上高、中繼増幅設備、地下(水底)線ノ埋設法

四、通信能力(直通距離、通信容量等)

五、建設年月、補修ノ程度及補線ノ設備

六、外国勢力侵入狀況並ニ従業員ノ景況

七、通信破壞手段

八、通信窃取手段

第三款 無線電信及電話

一、通信機ノ機種特ニ周波數、勢力、電源、電力、製作會社、空中線ノ形式幅員方向、電柱ノ構造、爲シ得レバ内部接続圖

二、所屬通信所ノ位置及配置並ニ従業員ノ人員、素質、技倆及思想傾向

三、建設年月要スレバ補修程度、主要対向通信所並ニ電力補充系統

四、占領利用法、破壊法等ニ關スル判斷

第四款 無線放送

一、放送局ノ位置及配置、聽取者數

二、放送能力(機種特ニ周波數、勢力、電力)

三、所屬、建設年月要スレバ補修ノ程度

四、外国勢力

五、占領利用法及破壊法

第五款 海(水)底電線

一、揚陸地點ノ位置、附近ノ地形及海岸ノ狀況並ニ陸上通信網トノ連絡關係

二、使用器材特ニ種類、條數及心線數

三、所屬、位置、建設年月要スレバ補修ノ程度並ニ従業員

四、窃取、破壊及遮断法

第二節 郵便

第一款 制度、線路圖

第二款 通送機関ノ種類、能力及主要都市間ノ通送所
要日數

第三款 郵便局所ト電信(電話)トノ關係

第七章 航空(航空一覽圖(主要航空網、飛行場ノ關係ヲ

明示ス)ヲ附ス)

第一節 飛行場

本文略

第二節 民間航空

一、航空網及定期航空ノ狀況並ニ飛行場

二、航空會社並ニ其ノ經營ノ狀況、機種、機數、航空要員ノ數及国籍

三、航空要員養成機関、航空術修得ノ狀況

四、飛行機(發動機ヲ含ム)製造若クハ修理工場(詳細ハ第三篇第一

章第四節、工場ノ部ニ譲ルコトヲ得)

五、航空獎勵ノ施設及方法

六、航空に於ケル外国勢力

七、戰時軍用ヘノ轉移ノ難易並ニ其ノ能力等ニ対スル觀察

第三節 防空施設

一、計畫、施設、資材並ニ其ノ能力

二、防空訓練ノ狀況

第四節 爆撃目標(都市要塞等ノ記述ト重複スルモノハ

適宜簡略又ハ省略ス)

一、目標ノ種類ヲ明記シ爆撃スベキモノ、スベカラザルモノヲ區別スル

コト必要ナリ

二、目標ノ正確ナル位置狀態「形状、長度、色彩、素質(木造、石造等)
等」、目標附近ノ土質並ニ目標ノ發見ヲ容易ナラシムル補助目標

成ルベク寫真又ハ寫景圖ヲ附スルヲ要ス

第八章 衛生

第一節 衛生ノ概況

地方衛生ノ特性等ヲ記述シ之ガ作戰、作戰部隊ノ裝備施設行動等ニ及ス

影響及之ガ対策等ヲ記述スルモノトス

第二節 地方住民ノ衛生狀態及衛生施設

地方住民ノ衛生狀態及衛生施設

地方衛生(獸医)機関(材料)ノ狀況並ニ利用具体案

第三節 傳染病(獸疫ヲ含ム)

傳染病ノ種類其ノ症狀及各季傳染病發生狀態並ニ之ガ対策

第四節 風土病

風土病、地方多發疾患ノ種類、狀態、原因ト其ノ対策

第五節 人馬ニ害毒ヲ及ス小動物

第九章 都邑

第一節 主要都市

一、政治、金融經濟及軍事上ノ勢力並ニ價值

二、其ノ他攻防ノ爲ノ地形判断並ニ宿營、給養上ノ價值判断

三、市街圖ヲ調製シ概ネ左記事項ニ関シ記述ス

1. 戸口及住民ノ狀態

2. 市街ノ景況、重要建築物ノ位置、種類、構造等及市街附近空地ノ

景況

3. 城壁、圍廓其ノ他ノ防禦竝ニ防空設備ノ狀況、攻防上ノ便否、著明目標、爆撃目標竝ニ爆撃スルヲ不可トスルモノ

4. 電燈（発電所及変電所ノ位置、能力竝ニ其ノ警戒狀況、送電ノ状態等）、水道（水源ノ種類及位置、取入口、流水路、貯水池、浄水地、浄水及消毒ノ方法、給水能力及範圍、水源取入口貯水池配水路等ノ警戒狀況）、交通等ノ施設

5. 市政（行政、徴税、保安機構等）、司法、金融經濟機構、市況等（大要ヲ記シ詳細ハ占領地統治ノ章ニ譲ルヲ得）

6. 第三国ト關係アル施設（都市以外ノモノヲ含ム別ニ図示スルモ可ナリ）

第二節 一般住民地

一、分布状態、住民地ノ外部及内部ノ景況

住民地ノ攻防竝ニ防空上顧慮スベキ件

二、宿營及給養上ノ價値判断

第三節 住民

作戰竝ニ占領地統治ノ見地ニ基キ左ノ件ヲ記述ス（詳細ハ占領地統治ノ章ニ譲ルヲ得）

一、住民ノ種類及職業

二、性情、特質、習俗、文化程度、思想、宗教的特性、特殊結社、土匪等

第十章 宿營及給養

第一節 概説

一、地方ノ宿營給養力ノ作戰ニ及ス關係ヲ判決的ニ記述ス（宿營給養力

ハ成ルベク図表ヲ以テ明示ス）

二、廣漠不毛其ノ他宿營、給養上特殊ナル考慮ヲ要スベキモノニ関シテハ特ニ之ヲ觀察ヲ周到ナラシムルヲ要ス

第二節 宿營

第一款 人口及戸數

一、人口

總人口、各村落都市毎ノ人口、種族、内外人及職業別区分、人口密度竝ニ分布景況

二、戸數

一 地方ニ於ケル住民地ノ平均戸數、主要住民地ニ於ケル戸數及一戸ニ對スル平均棟數、戸數ト人口及世帯數トノ關係

第二款 家屋ノ構造

地方一般ニ用ヒラルル間取、構造及圍牆ノ景況等ヲ図示シ家屋ノ特質、宿營ノ為收容人馬數及防寒防暑ノ爲ノ装置及收容能力擴大ノ爲ノ方法、其ノ他宿營ニ際シ衛生上注意スベキ件等ヲ註記ス

第三款 宿營力

概ネ四軒平方ノ地域若クハ主要部落又ハ大家屋（兵營學校等）毎ノ宿營能力判断、普通舎營狹縮舎營（最大收容ノ場合）ニ於ケル收容部隊數（若クハ人馬數）及倉庫等ノ利用坪數ヲ概算ス右判定ニ當リテハ特ニ給水、燃料、糧秣等ヨリノ見地モ併セ考察スルヲ要ス

第四款 露營地

人口稀薄ナル地方ニ於テハ特ニ露營地ノ選定ノ為之ニ適スル地形、住民地利用ノ程度、給水、燃料等ニ関シ記述スルヲ要ス

第三節 給養

- 一、野戰車ノ給養ニ資スルヲ主旨トシ地方ノ常用ヲ顧慮シ主食品副食品、加給品、馬糧品竝ニ此等代用品ニ就キ收集可能數量及給養力（收集可能數量ヲ基礎トシ野戰一師團ノ給養日數ヲ算出ス）ヲ概述ス
- 二、給養品ノ種類、生産、集散消費ノ状態、收集要領ヲ記述ス（詳細ハ資源調査ニ於テスルヲ本旨トシ本節ニ於テハ概説ニ止ム）

第四節 給水

- 一、給水ニ關スル判決、特ニ給水可能兵力ノ判定
- 二、地表水（河川、湖沼）及地下水（井、泉）ノ状態竝ニ其ノ數、水量、水質（為シ得レバ水質検査表ヲ附ス）、要スレバ浄水法、搬水法
- 三、給水上ヨリスル地質、鑿井法、為シ得レバ地層断面図

第五節 燃料

- 薪材、薪代用品（柴、樹枝、穀稈等）、木炭、石炭（骸炭其ノ他代用品ヲ含ム）、油類（各種類毎ニ區別ス）等宿營ニ要スル燃料ノ所在、收集可能數量、現地ニ於ケル増産手段竝ニ増産見込、收集要領竝ニ價格

第十一章 要塞

第一節 海（江）岸要塞

- 一、要塞ノ任務竝ニ價值
- 二、要塞ノ編成、各防禦線ノ編成及素質、海（江）面防護施設竝ニ要塞建設年次及補修ノ狀況
- 三、要塞ニ依リ掩護又ハ阻止セラルベキ軍港、商港又ハ海峡河川等ノ狀況、要塞司令部其ノ他重要ナル建造物、彈藥庫、無線有線通信所、水源地、發展電所、倉庫、工場等

- 四、要塞兵備兵力編組竝ニ準備彈藥、戰備ノ種類程度、動員時ノ兵力判斷竝ニ要塞ニ協力シ得ル兵力、防空施設

- 五、要塞近傍海陸ノ地形、氣象、海象竝ニ上陸ニ對スル觀察

- 六、將來ニ於ケル改修計畫及現存要塞利用法ニ關スル判斷

- 七、要塞攻略ノ方法特ニ乘ズベキ弱點、奇襲、空襲ノ能否竝ニ海軍兵力ヲ以テスル攻撃ニ關スル判斷

第二節 陸地要塞

概ネ海岸要塞ニ就キテ述ベシ所ニ準ジ記述ス

第二篇 兵要資源及經濟状態

第一章 兵要資源

- 一、兵要資源調査報告ノ趣旨ハ作戰上ノ獲得利用シ得ベキ現地資源、軍需竝ニ國民必需ノ資源ニ關シ其ノ生産消費流動等ノ状態ヲ調査シテニ之方收集利用ニ關スル資料ヲ得ルニアリ
- 二、兵要資源ノ報告ニ當リテハ其ノ儘或ハ輕易ナル加工ヲ為シテ直チニ作戰上ノ利用ニ供シ得ベキモノ（作戰用資源ト略稱ス）ト軍需品原料其ノ他國民ノ必需タル原料品若クハ製品（總動員用資源ト略稱ス）、工場、事業場竝ニ運搬材料、勞役夫、特業者及倉庫ニ区分ス
- 三、調査ハ通常別ニ指示スル地方区分ニ依リ主要都市（例ハ本市及主要縣城ノ如ク物資集散ノ比較的多キモノ）ヲ一單位トシテ實施スルモノトス

- 但シ資料其ノ他ノ關係ニ依リ市、縣等ノ行政区劃ヲ一單位トシテ實施スルヲ便トスル場合ニ限り之ニ依ルコトヲ得

- 四、兵要資源綜合的觀察ニ資スル爲一地方（前項地方区分ニ依ル）ヲ一

單位トスル調査ヲモ併セ實施スルモノトス

五、兵要資源ノ調査ハ現存状態ノ調査ニ満足スルコトナク未開發資源ノ開發ニ関スル著意ヲ必要トス

六、報告ニハ實査又ハ他ノ資料ニヨル出所ヲ区分シテ明記スルヲ要ス又諸統計事項ハ成ルベク長期ニ亙ルヲ可トス

七、兵要資源調査ノ結果ハ左ノ四者ヲ以テ報告スルヲ本則トス但シ調査進捗ノ度ニ應ジ分割報告スルヲ妨ゲズ

1. 某地方資源調査表

作戰用資源調査表

様式附表第二

總動員用資源調査表

2. 某地資源調査表

作戰用資源調査表

様式附表第二

總動員用資源調査表

運搬材料調査表

勞役夫調査表

特業者調査表

倉庫調査表

工場及事業場調査表

3. 某地方資源生産消費及流動景況図

4. 某地方資源収集利用法

八、基礎的調査實施以後ニ於ケル補修訂正資料ノ報告ハ前項ノ規定ニ拘ラズ便宜ノ方法ニ依ルコトヲ得

第一節 作戰用資源

本文略

第二節 運搬材料、勞役夫、特業者及倉庫

本文略

第三節 總動員用資源

本文略

第四節 工場及事業場

本文略

第二章 經濟状態

經濟状態調査報告ノ趣旨ハ一國又ハ一地方ニ於ケル經濟狀況ヲ知得シ軍事の諸工作ノ樹立、資源ノ収集利用、占領地統治等ニ必要ナル資料ヲ得併セテ戰爭遂行力並ニ國際情勢等ノ判定ニ資スルニ在リ

第一節 經濟把制

一、一國又ハ一地方ニ於ケル金融經濟ノ中心地並ニ其ノ勢力

二、作戰行動ヲ以テスル之ガ把制法及所要兵力ノ考察

三、把制後ノ處置、管理ノ方法並ニ警備ノ方法

四、右把制ガ地方經濟、金融等ニ及スベキ影響其ノ他外國勢力ノ關係等

第二節 財政及税制

一、財政計畫

二、中央及地方ノ歳出入豫算ノ狀況（特別會計、特別資金等共）

1. 收入ノ主要項目特ニ借款、公債、借入、官業收入等

2. 支出ノ主要項目特ニ軍事費並ニ直接間接軍事ニ関スル經費等

三、歳出中ニ占ムル軍事費ノ地位並ニ之ニ對スル輿論、政治勢力トノ關係等

係等

四、国富並ニ国民所得

五、国民所得ト国民負擔力トノ關係

六、国有財産

七、国費ニ準スベキ軍事關係ノ經費（我国在郷軍人會ノ財政、国防獻金等ノ如キ）

八、税制

種類、税率、納期、徵稅方法、徵稅機關等

九、戰時賦課金、取立金等ニ關スル事項

第三節 産業

第一款 各種産業ノ状態

一、農業

一、農家戸數及人口（全戸數（人口）トノ比率ヲモ調査スルヲ要ス）

二、農業機構及經營ノ特徴

三、主要農産物ノ種類及收穫量

四、作付面積及單位面積ノ收穫量、收穫時期、貯藏ノ状態、適種及增收方法等

五、農業上ヨリスル地質及氣象

二、鑛業

一、資源賦存ノ景況

二、採掘鑛区ノ概況

三、鑛区、鑛物ノ種別、鑛質及含有量

四、埋藏量、可能採掘量及鑛産額

五、施設經營ノ概況及将来ノ見込

其ノ他第三篇第一章第四節ニ示ス事業場調査ニヨル

三、工業

一、工業ノ概況

二、第三篇第一章第四節ニ示ス各種工場ノ施設經營ノ概況及将来ノ見込

三、工場ノ利用法等

四、其ノ他

牧畜業、水産業、林業等ニ關シテモ右諸項ニ準ジ調査スルモノトス

第二款 産業政策並ニ經濟的關係

第一款ニ示ス各種産業ニ就キ左記事項ヲ報告ス

一、各種産業（官業ヲ含ム）ニ対スル政策特ニ保護助長策並ニ調査研究

審査機構（各種産業ノ永年又ハ年度計畫等ノアル場合ハソノ内容）

二、各種産業ニ關スル法制及條約

三、各種産業ノ國民經濟ニ占ムル地位

四、各種産業ノ地域の分布

五、各種産業ノ品種別分布

六、-----

七、各種産業ノ技術ノ程度並ニ經營形態、規模（手工業、家内工業、工

場工業別又ハ大小区分等）及工場ノ内部組織（管理經營ノ状態等）

八、各種産業ノ企業形態

九、各種産業所要原料動力ノ需給並ニ其ノ将来

一〇、勞動力（數、質、需給關係等）ト其ノ就業状態

一一、勞銀並ニ勞動運動事情

一二、主要商品ニ対スル生産費内譯

一三、配給關係（商業資本トノ支配關係、直營、一手販売、代理等ノ關係）

貿易品積載船舶ノ国籍別員數及噸數
商習慣

一四、生産ノ統制（制限ヲ含ム）ニスル政府並ニ生産者ノ方策

第四節 商業貿易其ノ他

九、物價

各年品種別月別物價表

一、各種商業（交通、運輸ヲ含ム）ニ対スル政策ノ概要

物價指數

二、各種商業ニ対スル法制並ニ條約

價格調節策（政府ノ分共）

三、各種商業ノ国民經濟ニ占ムル地位ト發展傾向

一〇、度量衡制度並ニ彼我ノ比較

四、商業機關（主要輸送機關、倉庫、取引所、其ノ他ノ諸團體）

第五節 金融及貨幣

1. 經營規模（取扱量、額等）

一、金融及金融市場一般

2. 企業形態並ニ結合關係

二、外国爲替

五、配給機關ノ地域ノ分布並ニ資本關係

爲替市場、取扱機關、相場等

六、品種別配給組織ノ概要

三、金融機關

七、国内取引

1. 銀行

移出入品期（月）別數量及價格

2. 保險

移出入地別品種數量及價格

3. 信託

移出入經路及輸送法

4. 其ノ他ノ機關

商習慣等

四、金利（中央銀行、市場金利等）

八、海外貿易

五、通貨

國際貸借

貨幣制度、種類及單位、發行高、正貨準備、流通狀態等

輸出入品總價格、品種別數量及價格

第三款 外国經濟勢力

輸出入品期（月）別品種、數量及價格

輸出入品仕向地又ハ仕出地別品種、數量及價格

（以上再輸出入關係ヲモ明カニスルコト）

一、商の勢力

1. 貿易上ノ地位（商品、船舶、中繼取扱高等）

2. 投資（政府借款事業、投資等）

3. 條約關係

二、政治勢力

1. 行政方面ニ於ケル權益
2. 航空、通信、航行等ノ利權

五 四 調査要項(冊子)

調 査 要 項

調査要綱

第一節 序論及総説

- A. 地域
- B. 歴史(簡明ニ)
- C. 大観(地形、氣象、植生。交通、給水、産業等)
- D. 時測、度量衡、通貨
- E. 磁気変異
- F. 綴字及地理的名稱
- G. 情報の根源及確度
- H. 地図図表、写真

第二節 用兵的觀察

- A. 意義、特性
- B. 軍事的發展
- C. 将来の發展性
- D. 距離

第三節 沖合狀況

- A. 礁及深度
- B. 風及海流
- C. 潮流、干満流
- D. 波浪(海岸、寄波)
- E. 海水の性状
- F. 水中聴音及潜水條件
- G. 海底沈澱物
- H. 海図

第四節 海岸叙述

- A. 概説
- B. 各論(区域毎)
- C. 上陸海浜
1. 沖合狀況の要旨
2. 海浜

- 3. 内陸移動に関係ある條件
- D. 海岸防備

第五節 港湾

- A. 概説
- B. 主要港
- C. 副港
- D. 小港及錨地

第六節 地文

- A. 総説
- B. 地域別叙述
 - 1. 地形
 - 2. 排水（湖沼、河川、沼沢の通過可能性）
 - 3. 運動の難易
 - 4. 展望、通視の関係、遮蔽の度
 - 5. 土壌の質（歩行、交通に対する）
 - 6. 磁気変異

第七節 植物

- A. 概説
- B. 森林
- C. 草原、荒蕪地、灌木、林

- D. 耕作
- E. 沼沢、植生

第八節 河川、運河、湖沼、沼沢

- A. 総説
- B. 河川
 - 1. 流水状態
 - 2. 舟運状況
 - 3. 岸礁及堰堤
 - 4. 河底及河岸状況に依る通過の難易
 - 5. 細説
- C. 運河及運河系統
- D. 灌溉系統
- E. 湖沼
- F. 沼沢

第九節 大気利用度（空中状況）

- A. 概説
- B. 飛行場
 - 1. 詳説
 - 2. 利用可能基地
- C. 水上機基地
 - 1. 詳説

2. 利用可能基地

第十節 道路

- A. 総説
- B. 道路系統及道路型
- C. 分類及輸送可能噸數
- D. 建設及維持（保線）
- E. 橋梁、隧道、渡船場
- F. 主要路の詳細
- G. 径路

第十一節 鉄道

- A. 総説
- B. 型及線別
- C. 建設及保線（維持）
- D. 橋梁
- E. 隧道
- F. 不安定度（攻撃等に対する弱点）
- G. 修繕難易度
- H. 列車入換場
- I. 主要線の詳説

第十二節 運輸

- A. 総説
- B. 車輛

1. 機関車

2. 客車

3. 貨車

- C. 自動車運輸
- D. 水上運輸
- E. 空中運輸
- F. 他の運輸方法

第十三節 通信

- A. 総論
- B. 電信
- C. 電話
- D. ラヂオ
- E. 海底ケーブル
- F. 郵便制度

第十四節 都市

- A. 総説
- B. 主要都市
- C. 小都市及町

第十五節 資源

A. 総説

B. 食糧

1. 農産物

2. 獣肉類乳製品、魚類

3. 保存食糧品

C. 飼料

D. 燃料

E. 建築材料

1. 木材

2. 礫

3. その他

F. 鉱物資源

G. 給水

H. 動力

I. 労力

第十六節 工業

A. 総説

B. 詳細

第十七節 住民及行政

A. 総論

B. 人種的特徴

C. 社会的習慣及宗教

D. 職業的分布

E. 教育

F. 住民の生活に関する詳細

G. 政府

第十八節 衛生

A. 総説

B. 疾病

C. 公衆保健及衛生状態

D. 病院及衛生施設

E. 傳染病及危険動物

第十九節 気候

A. 総説

B. 暴風の型及頻度

C. 風

D. 降水

E. 雲

F. 霧及可視度

G. 温度

H. 湿度

I. 結氷状態

- 二 軍事的發展
- 三 將來の趨勢

五五 別冊 作戰に関する地理的重要事項(冊子)

別冊

作戰に関する地理的重要事項

作戰に関する地理的重要事項(調査要領)

第一章 序論及び総説

一 地域

二 沿革

三 大観(地勢、交通、氣象、資源、衛生等)

四 時測、度量衡、通貨

五 磁気変異

六 綴字及地理的名稱

七 情報源及確度

第二章 用兵的觀察

一 意義、特性(戰術的及び戰略的)

第三章 沖合の状況

一 概説

二 水深及び礁

三 海上氣象

四 海流

五 潮汐、潮流

六 波浪

七 海水の性況

八 水中聴音及び潜水に関する状況

九 底質

第四章 海岸の状況

一 水際

1 概況

2 潮差

3 海浜(上陸適否)

二 沿岸

1 概況

2 内陸交通との關係

3 地勢、地形

4 海岸気象

5 上陸作戦に関する特殊事項
(海岸防衛を含む)

三 港湾

1 概説

2 第一流の港

3 第二流の港

4 小港及び泊地

第五章 地勢

一 山系

1 山地の範囲と其の限界

2 山嶺と頂界線

イ 位置、方向、幅員

ロ 標高及び比高

ハ 形状

ニ 起伏及険峻の状況(傾斜度)

3 地表の状況

イ 溶岩、散岩地帯等

ロ 樹木

ハ 展望、射撃

4 峠及び関谷

イ 位置(経緯度を以て示す) 形状

ロ 標高比高

ハ 傾斜度(上りと下りに区分す)

ニ 通過の難易(降雪降雨等の及ぼす影響)

5 谷地及び盆地

イ 位置、形状、境界、面積等

ロ 縦横断面

ハ 山腹及び山麓の形状

ニ 河水

6 軍隊の運動に及ぼす影響(運動の難易を附記すること)

二 高原、丘陵

1 高原、丘陵の範囲と其の限界

2 位置、形状、起伏度

3 地表の状況

イ 標高、比高

ロ 遮蔽度

ハ 土質

4 関谷、水流等の状況 断崖の有無 ↓

5 周辺の概況 高原 ↓

近隣の山系 ↓

6 軍隊の運動の難易を附記すること

三 平地

1 位置、疆域、形状

2 地表の状況

- イ 標高
- ロ 傾斜、起伏の状況
- ハ 耕地の状況
- ニ 地質（岩石、礫石、土）
- ホ 植物
- 三 主なる遮蔽物体
- イ 平地上の山又は丘陵
- ロ 関谷、河水
- 四 其他の障碍
- 溝、断層、塚、岡等
- 五 軍隊運動の難易
- 四 河川運河
 - 1 河川分布の狀態
 - 2 位置延長、本支流の状況
 - イ 流水状況
 - ロ 岩礁及堰堤
 - ハ 河底及河岸の状況
 - 沼底、泥沙、岩石、礫石、土質、高低、傾斜等
- 3 主要なる地点に於ける河幅、水深、流速
 - 増水期
 - 減水期
 - 平水期
 に分つ
- 4 舟運の状況、灌溉系統
- 5 水質
 - 清水、泥水、四季による変化
- 6 結氷状況
 - 結氷期間、結氷の狀態
- 7 四期による水量の変化
 - 増水減水期間を月、日を以て示す
- 8 渡河点
 - 橋梁、舟渡、渡渉
- 五 湖沼及び濕地
 - 1 湖沼濕地の分布狀態
 - 2 位置形状、水深、水質
 - 3 湖底の状況
 - 4 湖沼、濕地帯周辺の地形
 - 5 結氷狀態
 - 6 四季による変化
 - 7 軍隊通過の難易
 - 通過可能の地点、時期、通過法及びその難易
- 六 地質
 - 1 土壤の構成
 - 岩盤、砂層、岩塩、粘土層等
 - 2 雨による変化
 - 雨後の変化、及び耐久性
 - 雨後の乾濕狀態

- 3 地質分布の境界
- 4 凍結状況

凍土の厚さ、凍土期間

第六章 森林及び植物

一 森林

- 1 森林の疆域

- 2 森林の區分

自然林、植林、濶葉、針葉等

- 3 樹幹

イ 樹高(最高、最低、平均)

ロ 高さ(目通りの高さ)に於ける樹幹の直径

ハ 密生の状態(二平方呎内の樹木の数)

ニ 堅牢の度

ホ 其の他の特徴

- 4 枝

イ 地面よりの高さ

ロ 樹幹に近い部分の直径

- 5 葉

イ 密度、繁茂状態

ロ 色彩

ハ 四季の変化

- 6 下生え

- イ 下生え植物の種類
- ロ 密生の状態

ハ 高さ

ニ 色彩

ホ 四季に於ける変化

- 7 軍隊行動に及ぼす影響

イ 運動

ロ 展望、通視、遮蔽(対地、対空)

ハ 射撃(砲と銃)

- 二 灌木及び叢林

1 灌木及び叢林の疆域、種類

2 高さ

3 色彩

4 四季の変化

5 軍隊行動に及ぼす影響

- 三 草原

1 草原、葦原及蘆原の境界、種類

2 高さ

3 密生の状態

4 四季に於ける変化

5 軍隊行動に及ぼす影響

- 四 耕地

1 耕地の境界及び作物の種類、耕作状態

- 2 四季による変化(発育、高さ、色彩)
- 3 耕作法の特徴

水田、乾田、灌漑水の利用法

種蒔、収穫時期

- 4 軍隊行動に及ぼす影響

第七章 気象

- 一 特性
- 二 気温
- 三 湿度
- 四 雨、雪
- 五 雲、霧、及び可視度
- 六 風、風塵、及び砂塵
- 七 其の他土地の気候的变化
- 八 上層気象

第八章 鐵道

一 鐵道網並にその軍事的價值

二 型及び線別

- 1 線名と其の延長

2 軌道

3 橋梁

4 トンネル

- 5 重要な交叉点
- 6 沿線の地形概観

三 建設及び保安

1 保安施設

2 修理工場

3 機関區

4 不安定度(対空、対地、対海上、防衛策等)

四 停車場施設

五 輸送力

第九章 道路

一 道路網並にその軍事的價值

二 道路系統及び其の等級

- 1 道路名と其の延長、等級

2 道路諸元

3 路面の状態

4 排水施設

5 重要施設

橋梁、隧道、渡船場、渡渉場

6 沿道の地形概観

三 建設及び保安

1 建設及び補修施設の状況

2 不安定度(敵側よりする空中、地上、海上よりする攻撃に対する)

弱点並に之が対策等を含む)

四 輸送力

第十章 水運

一 水運一般の状況

二 河川及び運河

1 船舶可航區域(増減水期及び平常時に区分す)

2 可航區域に於ける船舶の吃水及び噸數

3 急流、関谷、狭谷の位置及び状況

4 碇泊地及び錨泊状況

5 重要諸施設

6 保安

7 輸送力

三 湖

1 可航區域

2 平水、増減水期に於ける航行船舶の吃水及び噸數

3 碇泊地帯及び投錨の状況

4 渡水施設

5 輸送力

第十一章 通信

一 要旨

二 電信

三 電話

四 ラジオ

五 海底ケーブル

六 郵便制度

七 各項に関する細説

1 區間、回線網

2 運営状況

3 保線

4 重要施設

5 軍事的考察

(破壊、防衛、氣象、地形を含む)

第十二章 航空

一 要旨(軍用、民間、航空路及航空網)

二 飛行場

1 位置

2 種類、等級

3 構造

イ 地質、面積、周辺の地形、障碍物

ロ 滑走路の延長、巾員、形状、配列舗装

ハ 施設(修理工廠、兵舎、掩体等)

4 氣象

5 利用状況

6 軍事的考察（航空通信、航空保安を含む）

三 水上飛行機基地

- 1 位置（湖沼、河川、海）
- 2 其他は前項に準ず

第十三章 産業及資源

一 要旨

二 食糧

- 1 農産物
- 2 獣肉類、乳製品、魚類
- 3 保存食糧品

三 飼料

四 燃料

五 建築材料

- 1 木材
- 2 石材
- 3 其他

六 鉱物資源

七 動力

八 労力

九 運搬材料

一〇 諸工業の概要

一一 軍隊の宿営給養との関係

第十四章 住民地及行政

一 要旨

二 地方的特徴

- 1 社会的慣習
- 2 職業的分布
- 3 教育、宗教
- 4 生活状況
- 5 行政組織

三 都邑

- 1 位置
- 2 沿革
- 3 人口
- 4 特性
- 5 重要施設

四 軍隊の宿営、給養に関する事項

第十五章 衛生

一 要旨

二 疾病

三 公衆衛生及保健状況

四 病院及衛生施設（医療機関の数、病棟数、医師の数等）

五 傳染病及危険動物

六 給水

1 水道

2 泉、河川

3 地下水の状況

七 軍隊宿営給養に関する事項

第十六章 其他

一 資料の出所、情報源、確度

二 主要文献

三 情報組織

四 局所的知識の保持者、重要証言者

備考

一 成るべく地図、写真、図表を多く用ひて説明すること

二 重要事項に就ては本文中に（x）番号を附して脚注としてその出所
確度を明記すること

三 記述の要領は常に軍事的観点に立ち、その角度より要点を詳述する
こと

四 实地踏査と然らざるものとを区分する必要があるときは其の都度之を
記載すること

五 地図、図表等に記載すべき、記号、符号等は別に規定される迄は従
来の慣用例に従ふものとし其の一例は別表の如くである

（省略）

五 六 兵用日本地理總目次（冊子）

兵用 日本地理總目次

第一卷 總說

第一章 日本の位置、沿革、用兵的觀察

第二章 大觀

一 沖合及び海岸

二 地勢、森林、植物

三 氣象

四 交通

五 航空

六 資源

七 衛生

第三章 日本に関する特記事項

住民、度量衡、時刻、磁氣変異、通貨等

附図

附表

第二卷 北海道

第一篇 總論

第一章 地域、沿革、用兵的觀察

第二章 大觀

一 沖合及ビ海岸

二 地勢、森林

三 氣象

四 交通、通信

五 航空

六 資源

七 衛生

第二篇 各論

第一章 稚内周辺

第二章 紋別周辺

第三章 網走周辺

第四章 根室及釧路周辺

第五章 帯広平地

第六章 旭川平地

第七章 留萌周辺

第八章 小樽及札幌周辺

第九章 内浦湾沿岸及ビ室蘭周辺

第十章 岩内ヨリ瀬棚ニ至ル海岸

第十一章 函館周辺

各章共にその軍事的特性を述べ且つ調査事項中の主なるものにつき詳述する（以下同じ）

第三卷 本州東北部

（福島縣を除く東北地方）

第一篇 總論

第一章 地域、沿革、用兵的觀察

第二章 大觀

内容は第二卷に同じ（以下同じ）

第二篇 各論

第一章 八戸平地及ビ下北半島

第二章 青森弘前平地及津輕半島

第三章 秋田船川及ビ能代近傍

第四章 仙台平地

第四卷 本州東部

（関東地方の全部、中部地方の東半部及福島県）

第一篇 總論

第一章 地域、沿革、用兵的觀察

第二章 大觀

第二篇 各論

第一章 東京横浜地方

第二章 房總半島

- 第三章 水戸平地
- 第四章 宇都宮平地
- 第五章 高崎平地
- 第六章 会津盆地
- 第七章 新潟地方
- 第八章 長野松本周辺

第五卷 本州中部

(中部地方の西半部と近畿地方)

第一篇 總論

第一章 地域、沿革、用兵的觀察

第二章 大觀

第二篇 各論

第一章 名古屋周辺

第二章 若狭湾沿岸地方

第三章 京阪神地方

第六卷 本州西部及び四國

(中國及び四國地方)

第一篇 總論

第一章 地域、沿革、用兵的觀察

第二章 大觀

第二篇 各論

- 第一章 松江米子周辺
- 第二章 隱岐群島
- 第三章 浜田近傍
- 第四章 広島周辺
- 第五章 山口地方

第七卷 九州

第一篇 總論

第一章 地域、沿革、用兵的觀察

第二章 大觀

第二篇 各論

第一章 関門海峡

第二章 福岡周辺

第三章 唐津近傍

第四章 久留米平地

第五章 長崎佐世保地方

第六章 五島列島

第七章 壹岐

第八章 對馬

六 その他(参考資料等)

六一 (参考資料) 第二回委員会ノ開催

記

一、第二回委員会ノ開催

時及所 十二月十五日(金) 正午丸ノ内ホテル(席名安藤)

議題 (一)研究項目確定ノ件

(二)執筆者及枚數決定ノ件

(三)執筆依頼ニ關スル方針決定ノ件

(四)研究会ノ運営、委員ノ分擔部門決定其他今後ノ計畫實

施ニ關スル件

(五)追加委員紹介ノ件

(六)「中國調査會」ノ設立及ソノ研究計畫決定ニ關スル件

二、委員追加

去ル六日ノ第一回委員会ニ於テ御協議ノ結果及其後當方ニ於テ考慮仕候處委員ヲ左記ノ如ク決定今回ノ計畫及將來ニ於ケル「中國調査會」ノ運営ヲ御依頼致度ト存候ニ付テハ如何ニ候哉忌憚ナキ御意向拜聽致度(敬稱略○印追加)

(地理) ○多田文男 渡邊光

(歴史) 矢野仁一 羽田享 和田清 野原四郎

(社會) 根岸侖 平野義太郎

(思想) ○高坂正顕 ○上田辰之助

(政治) 平野義太郎 波多野乾一

(法制) ○戒能通孝

(經濟) 根岸侖 高橋正雄

(文化) ○吉川幸次郎 増田涉

(外交) 柳川彦松 ○田村幸策

(軍事) ○田中敬二 ○渡邊正

計 十八名

兵要地理資料集録(渡邊正氏資料) 完